

履修案内

平成 26 年度

佐賀大学大学院
経済学研究科

目 次

平成26年度 学年暦及び年間行事予定表	2
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	4
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	6
授業科目の選び方	8
履修モデル	9
履修について	10
修了要件と学位	10
研究指導計画	10
修士論文要領	11
教員免許	13
社会人のための特例による教育の実施について	16
経済学研究科規則	17
佐賀大学大学院経済学研究科履修細則	20
開講科目（26年度・27年度）	25
講義概要（26年度前学期・後学期）	31
大学院マニュアル	
学生センター配置図及び業務	75
大学院教務担当のお知らせ	76
授業料免除と奨学金制度	76
学生相談・保健管理センター	77
研究図書室の利用	78
情報演習室の利用	82
地域経済研究センターの利用	83
経済学会のご案内	85
大学院生室利用規則	86
教員研究室等案内図	87

平成26年度 学年暦及び年間行事予定表

月	日	曜	学 年 暦	行 事
4	1	火	前学期始、春季休業 (4月7日まで)	学友会及びサークル紹介（2日）（予定） 新入学生健康診断（2日まで）（予定） 前学期授業時間割発表
	3	木	平成26年度入学式	研究科オリエンテーション (教育学・経済学・医学系・工学系) 学部オリエンテーション(医)(7日まで) 学生会紹介(医学部のみ)
	4	金		学部オリエンテーション (文化教育、経済、理工、農) 研究科オリエンテーション(農学)
	8	火	前学期開講	
	30	水		火曜日の代替日
5	8	木		月曜日の代替日
6	28	土		全国統一英語能力テスト(TOEIC)
7	5	土		全国統一英語能力テスト(TOEIC) 予備日
	23	水		前学期定期試験時間割発表
	30	水		前学期定期試験（8月5日まで）
8	7	木	夏季休業（9月30日まで）	
	8	金		オープンキャンパス（予定）
9	24	水	平成26年度学位記授与式 <9月期>	後学期授業時間割発表
	30	火	前学期終	
10	1	水	開学記念日、後学期始、 後学期開講	
	3	金	平成26年度大学院入学式 (工学系博士後期課程等)	
	15	水		月曜日の代替日

月	日	曜	学 年 曆	行 事
11	6	木		月曜日の代替日
12	25	木	冬季休業（1月5日まで）	
1	7	水		月曜日の代替日
	10	土		全国統一英語能力テスト（TOEIC）
	17	土		平成27年度大学入試センター試験（1月18日まで）
	24	土		全国統一英語能力テスト（TOEIC）予備日
	30	金		後学期定期試験時間割発表
2	6	金		後学期定期試験（2月13日まで） (2/13は水曜日の試験日)
	25	水		平成27年度個別学力検査（前期日程） 入学試験（2月26日まで）予定
3	12	木		平成27年度個別学力検査（後期日程） 入学試験（3月13日まで）予定
	24	火	平成26年度学位記授与式 <3月期>	
	31	月	後学期終	

6月7日・14日・21日、7月12日・19日、11月22日、12月6日・13日・20日、1月31日は、補講日とする。ただし、土曜日の補講日は、授業曜日が重ならないよう補講曜日を指定する。（通常の授業日の6校時も利用することができる。）

7月25日・29日、8月6日、2月4日・5日・16日は台風到来等対応の予備日

1月6日・30日は入試対応の予備日

（参考）平成27年度

4	1	火	前学期始、春季休業 (4月7日まで)（予定）	
	3	金		学部オリエンテーション（予定）
	7	火	平成27年度入学式	
			前学期開講（予定）	

注：予備日については、通常の休講等に対応するものではなく、入試試験及び台風の到来等による大学全体の臨時休業等に充当するものである。

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

教育研究の理念と目的

経済学研究科の教育目的は、「経済学及び経営学・法律学の教育・研究によって幅広い視野と豊かな応用力を培い、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成すること」（「経済学研究科規則」第1条）である。各専攻では、教育目的を達成するための教育の目標を掲げ、それにしたがって開講科目の設置趣旨を定め、カリキュラムを編成している。

経済学研究科の2専攻とも、基礎科目4単位を必修とするほか、「総合セミナー」2単位と「演習I」・「演習II」8単位を必修科目としている。そのほかに各専攻の選択科目を履修することを定めている。

全教員がオンラインでのシラバスを作成しており、授業科目ごとの成績評価基準をシラバスに明示している。

成績評価基準を佐賀大学大学院学則第17条の2に定め、修了要件を第18条に定めている。修了認定について、2専攻において組織的に判定し、研究科委員会の議を経て決定している。

教育目標及び開講科目の設置趣旨

金融・経済政策専攻

1 教育目的

国際経済、国民経済、地域経済等の諸問題を経済学・法律学の方法により解明し、実践的課題に対応しうる人材を養成すること

2 教育目標

日本国内のみならず国際的、地域的な現代経済社会の構造と、諸問題・課題の発生とそれに対応するための企業、地域、国家、国際的な政策について、理論的あるいは実践的に研究し、広い視野と深い洞察に基づいて課題の発見と解決の方途を探求する能力を養成する。

- (1) 金融・経済政策のなかの基礎的な分野の研究と教育。
- (2) 情報処理や外国語能力などの研究のための基礎的スキルを身につける。
- (3) 経済社会の構造を理論的に把握する能力と、国際的な比較のなかで、またグローバルな関係として把握する能力を身につける。
- (4) 地域社会や国民経済の抱える経済問題を把握し、その経済的、法的な解決方策を解明する能力を身につける。
- (5) 個別的・具体的課題を設定した研究の指導。

3 対応する開講科目の設置

- (1) の目標に対応して、基礎的な科目として「金融経済論研究」「公共財政論研究Ⅰ」「行政基礎法研究Ⅰ」「政策評価研究」「社会選択理論研究」により、金融、産業、政府の役割を考える。
- (2) の目標に対応して、「情報基礎」「実用外国語」の必修科目によりスキルを向上させる。
- (3) の目標に対応して、「マクロ経済データ分析研究」「応用計量経済学研究」「数理経済分析研究」「動学マクロ経済学研究」「上級マクロ経済学研究」による理論的分析能力を磨き、「国際金融論研究」「発展途上国経済論研究」「開発経済学研究」「比較労働経済研究Ⅰ・Ⅱ」により、国際的比較やグローバルな視野で経済構造を把握する能力を向上させる。
- (4) の目標に対応して、地域社会と地方自治体、産業と産業の構造、市民社会と政府との関係を把握するために、「農業経済論研究」「経済地理学研究」「地域経済論研究」「地域政治研究」「地域福祉研究」「地方財政研究」「行政基礎法研究Ⅱ」「福祉政策研究」「公共財政論研究Ⅱ」により、問題や課題の解決能力を身につける。
- (5) 「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「総合セミナー」「フィールドワーク」により、個別的・具体的課題を設定して理論的、実践的に研究を深め、2年間をかけて修士論文を作成・発表する。指導教員により課題研究、論文作成を指導する。

企業経営専攻

1 教育目的

企業経営等の諸問題を経営学・法律学の方法により解明し、実践的課題に対応しうる人材を養成すること

2 教育目標

経済のグローバル化、情報技術の発展、産業構造の変化など企業・経営をとりまく環境の変化に対応するために、幅広い専門知識に裏づけられた現状認識と深い洞察力が求められる。それに対応して、経営・会計・法律にわたる広く確かな基礎知識を身につけ、課題の発見と解決能力をもった人材を養成する。

- (1) 企業経営のなかの基礎的な分野の研究と教育。
- (2) 情報処理や外国語能力などの研究のための基礎的スキルの修得。
- (3) 情報通信技術・資源と統計的情報を分析・活用する能力を身につける。
- (4) 企業の機構と経営資源の展開に関する諸問題を理論的、歴史的に把握するとともに、その解決方法を導き出す能力を身につける。
- (5) 企業および経営に関する諸問題を法的側面から把握・解明して、その解決策を見出す能力を身につける。
- (6) 個別的・具体的課題を設定した研究の指導。

3 対応する開講科目の設置

- (1) の目標に対応して、基礎的な科目として「経営財務論研究」「流通経済論研究」「経営分析論研究」「経済法研究Ⅰ」「契約法研究」により、企業活動の戦略、経営分析、法的な取り決めなどの広く基礎的企业経営に関する基礎知識を身につける。
- (2) の目標に対応して、「情報基礎」「実用外国語」の必修科目によりスキルを向上させる。
- (3) の目標に対応して、「地域データ解析研究」「時系列データ解析研究」「応用統計研究」により統計データの分析能力を向上させ、「応用通信システム研究」「経営情報システム研究」により情報通信の技術や資源を活用する能力を身につける。
- (4) の目標に対応して、「組織論研究Ⅰ」「組織論研究Ⅱ」「企業論研究」「法と経済研究」「現代労使関係研究Ⅰ」「現代労使関係研究Ⅱ」「経営史研究」「経営管理史研究」により経営管理を理論的、歴史的に把握する能力を身につけ、「商業経済論研究」により市場と企業活動の分析・実践的能力を身につける。また、「簿記論研究」「財務会計論研究」「管理会計論研究Ⅰ」「管理会計論研究Ⅱ」「国際会計論研究」により財務・会計から企業経営を把握する能力を身につける。
- (5) の目標に対応して、「企業法研究Ⅰ」「企業法研究Ⅱ」により企業組織の法制度を、「福利厚生関係法研究」「企業福祉法研究」により企業経営の法的責任と法制度について、「民法研究Ⅰ」「民法研究Ⅱ」「経済法研究Ⅱ」「環境法研究Ⅰ」「環境法研究Ⅱ」により企業間取引の基本的ルールと企業責任について、法律的に把握し、解決する能力を身につける。
- (6) 「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「総合セミナー」「フィールドワーク」により、個別的・具体的課題を設定して理論的、実践的に研究を深め、2年間をかけて修士論文を作成・発表する。指導教員により課題研究、論文作成を指導する。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

経済学研究科修士課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）において、経済学研究の教育目的および目的を実現するための教育目標を述べ、専攻ごとに身につけさせる学習成果を示している。

学修の成果に係る評価及び修了の認定の客観性と厳密性を確保するため、学生に対してすべてのシラバスにおいて、成績評価基準をあらかじめ明示し、その基準にしたがって適切に評価する。

異議申し立て制度により、成績評価の正確さを保証する。

修了認定は、2専攻とも制度に則って判定し、研究科委員会の議を経て決定している。

金融・経済政策専攻

1 学生に身につけさせる能力

国際経済、国民経済、地域経済のなかで生起する諸問題について、経済学と法律学の理論的、歴史的、政策的な幅広い視野から解明して、実践的に対応しうる研究能力を身につけていく。

2 学位の審査方法

学生の取得単位数を研究科教務委員会において判定し、修士論文審査報告書をもとに研究科委員会で判定し、研究科委員会の議を経て修了認定を行っている。

企業経営専攻

1 学生に身につけさせる能力

経営管理や会計などの経営学、企業活動に関する法律学の専門知識を身につけるとともに、企業経営の抱える諸問題について実践的に対応しうる研究能力を身につけていく。

2 学位の審査方法

学生の取得単位数を研究科教務委員会において判定し、修士論文審査報告書をもとに研究科委員会で判定し、研究科委員会の議を経て修了認定を行っている。

授業科目の選び方

- (1) 教育研究分野・授業科目の内容及び担当教員を参考しながら設定する。
(2) 多様な高度知的人材の養成という研究科の目的にそって、研究科修了後の進路に対応した履修モデルを示しておく。

〈金融・経済政策専攻〉

金融機関勤務	金融・政策分析分野の科目を中心に、数量経済分析分野、企業関係法分野の科目も選ぶ。
自治体勤務	地域・福祉政策分野の科目を中心に、金融・政策分析分野、比較経済分野の科目も選ぶ。
国際経済研究に関する仕事	比較経済分野の科目を中心に、金融・政策分析分野、地域・福祉政策分野の科目も選ぶ。
公民科教員	数量経済分析分野、金融・政策分析分野、地域・福祉政策分野の科目を中心に選ぶ。

〈企業経営専攻〉

企業法務担当者	企業関係法分野の科目を中心に、会計分野、金融・政策分析分野の科目も選ぶ。
経理専門職	会計分野の科目を中心に、統計情報分野、経営管理分野の科目も選ぶ。
商業科教員	経営管理分野、会計分野、統計情報分野の科目を中心に選ぶ。

博士課程進学を希望する学生は、指導教員と相談のうえ履修計画をつくる。

(3) 講義及び演習

講 義：履修モデルをなす各授業科目について、教員の講義と学生による討論

演 習：学生自らの研究分野を中心とする発表と教員の討論

共通科目：コンピュータの利用法など、コンピュータに関する情報基礎並びにネイティブスピーカーによる経営・経済の実務に必須の実用外国語の学修

基礎科目：1年生を対象に金融・経済政策専攻、企業経営専攻のそれぞれの専攻の基礎をなす科目であり、各専攻分野の基礎的素養の涵養を目的として開講する。

フィールドワークⅠ、Ⅱ：学外での調査研究とレポート作成で実践的能力を養う。

総合セミナー：2年生対象。論文作成能力を養うため、学生自身が本人の研究テーマを中心として、専攻分野の複数の教員と学生から構成されるグループで発表、討議を行う。

必修、選択の内訳、○は単位数

必修科目 14 単位	基礎科目④(②×2)，演習Ⅰ④，演習Ⅱ④
	総合セミナー②
選択必修 2 単位	情報基礎②，実用外国語②
	いずれか1科目
選択科目	7科目14単位以上 フィールドワークⅠ，Ⅱ

演習Ⅰ、演習Ⅱは通年科目。

総合セミナーは2年次、夏季集中として実施。

フィールドワークⅠ、Ⅱは集中講義として実施。

<金融・経済政策専攻>

I. 金融・産業政策履修モデル

	演習	共通科目	基礎科目	専門科目	履修登録単位数
1年前期	演習I		社会選択理論研究	国際金融論研究 企業論研究	8
1年後期	演習I			発展途上国経済論研究 動学マクロ経済学研究 比較労働経済研究I	8
2年前期	演習II 総合セミナー	実用外国語	金融経済論研究	応用計量経済学研究 公共財政論研究II	12
2年後期	演習II				2
修了要件単位数	10	2	4	14	30

II. 公共経済履修モデル

	演習	共通科目	基礎科目	専門科目	履修登録単位数
1年前期	演習I		公共財政論研究I	農業経済論研究 企業論研究	8
1年後期	演習I			比較労働経済研究I 経済地理学研究 動学マクロ経済学研究 地域福祉研究	10
2年前期	演習II 総合セミナー	実用外国語	政策評価研究	公共財政論研究II	10
2年後期	演習II				2
修了要件単位数	10	2	4	14	30

* 演習I, 演習IIは通年科目。総合セミナーは夏期集中講義。

<企業経営専攻>

I. 経営学履修モデル

	演習	共通科目	基礎科目	専門科目	履修登録単位数
1年前期	演習I	情報基礎	経営財務論研究	商業経済論研究 組織論研究I 環境法研究I	12
1年後期	演習I		経営分析論研究	管理会計論研究I	6
2年前期	演習II 総合セミナー			簿記論研究 法と経済研究 組織論研究II	10
2年後期	演習II				2
修了要件単位数	10	2	4	14	30

II. 会計学履修モデル

	演習	共通科目	基礎科目	専門科目	履修登録単位数
1年前期	演習I	情報基礎	経営財務論研究	簿記論研究 環境法研究I	10
1年後期	演習I		経営分析論研究	管理会計論研究I 財務会計論研究 経営史研究	10
2年前期	演習II 総合セミナー			法と経済研究	6
2年後期	演習II			国際会計論研究	4
修了要件単位数	10	2	4	14	30

* 演習I, 演習IIは通年科目。総合セミナーは夏期集中講義。

履修について

1 Webによる履修登録になるので、詳しくは掲示を見ること。不明な点があれば教務課経済学究科教務担当に問い合わせること。

(未定教科があっても、まず登録して後日の確認期間内に修正が行える。)

フィールドワーク、総合セミナーは学期途中から開始されるので、その都度履修登録手続きをすること。

2 演習、フィールドワークの時間割は、教員と学生との話し合いにより決定する。

修了要件と学位

(1) 修了要件

本研究科に原則として2年以上在学して、所定の授業科目について30単位（演習8単位、その他22単位）以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、本研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

(2) 学位

上記修了要件を満たした者には、修士（経済学）の学位を授与する。

研究指導計画

基礎科目により基礎的素養を涵養し、履修モデルをなす授業科目により高度知的人材となる学力を涵養し、フィールドワーク、共通科目（情報基礎、実用外国語）によって実践的能力を養う。

入学時に、指導教員と相談のうえ研究題目を提出する。2年次に受講する「総合セミナー」の前までに修士論文の題目を絞込み提出期限までに修士論文を完成させる。論文作成に必要な資料収集・分析、文献解読・考証などの能力は「演習」によって養い、「総合セミナー」ではグループ討議・報告により幅広い視野からの論文作成能力を養う。

1年	4月	研究題目の提出
2年	夏季休暇中	総合セミナーにおいて報告
2年	12月20日	論文題目の提出期限
2年	1月10日	修士論文および論文要旨の提出

修士論文要領

平成16年4月1日経済学研究科委員会制定

(提出者)

1 所定の授業科目の単位を修得した者又は修得見込みの者は、修士論文を届け出ることができる。

(提出期限)

2 修士論文の提出期限は、1月10日午後5時とし、論文題目の提出期限は、前年12月20日午後5時までとする。(期限日が土曜、日曜、休日の場合は、直後の平日を期限日とする。以下この項において同じ。)

なお、9月に修了が予定される者の修士論文の提出期限は、修了年度の7月10日午後5時とし、論文題目の提出期限は、6月20日午後5時までとする。

(使用言語)

3 修士論文は日本語を原則とする。なお、外国語については申出により別途考慮する。

(字数)

4 修士論文の字数は2万字(例400字詰原稿用紙50枚)以上とし、併せて論文要旨(1,000字以内)を提出するものとする。ただし、修士論文の字数については申出により、内容及びテーマを勘案して別途考慮することがある。

なお、外国語論文の字数(論文要旨の字数も含む。)については、上記3の考慮の際併せて考慮する。

(提出部数)

5 修士論文及び論文要旨は、各4部提出するものとする。ただし、3部はコピーとすることができる。

(言語と字数に別途考慮を求める者の手続)

6 上記3及び4に規定する別途考慮を求める者は、あらかじめその旨を指導教員に申し出て、許可を受けなければならない。

なお、許可を受けた場合は、論文題目提出時にその旨を付記するものとする(付記のない場合は、2万字以上の日本語による論文提出予定者とみなす。)。許可、不許可は指導教員が通知する。

(用紙)

7 修士論文及び論文要旨に原稿用紙を用いる場合は、A4判400字詰原稿用紙を使用するものとする。ワープロを用いる場合は、A4判白紙を使用し、全角を1字として1ページに1,200字程度となるよう印字するものとする。

(面接)

8 修士論文提出者は、指導教員が指定する日時(2月中を予定)に論文に関する面接を受けなければならない。

なお、9月に修了が予定される者については、8月中を予定する。

(修士論文の評価基準)

9 修士論文の評価基準は、次に掲げるとおりとする。

(1) 修士論文の題目に関する文献・資料を広く涉猟していること。

(2) 当該研究分野の既存の研究動向をよく踏まえていること、そして独自の分析視点が組み入れられていること。

(3) 上記の内容が首尾一貫性を有し、目次、結論、論文要旨を通じ、論文全体の構成が明快になっていること。

(4) 修士論文審査における質疑応答において明晰な論文内容・趣旨が報告・説明されること。

附 則

この要領は、平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附 則 (平成 19 年 1 月 31 日改正)

この要領は、平成 19 年 4 月 1 日から実施する。

附 則 (平成 20 年 12 月 3 日改正)

この要領は、平成 21 年 4 月 1 日から実施する。

附 則 (平成 25 年 3 月 6 日改正)

1 この要項は、平成 25 年 4 月 1 日から実施する。

2 佐賀大学経済学研究科修士課程学生の 9 月 30 日付け課程修了についての申合せ（平成 16 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

(修士論文題目届出様式例)

平成 年 月 日

佐賀大学大学院
経済学研究科長 様

専攻名
学籍番号
氏名 印

経済学研究科修士論文題目名の届出について

このことについて、経済学研究科修士論文要領第 2 に基づき下記のとおり届出いたします。

記

1. 修士論文題目名

2. 指導教員名

指導教員 印

副指導教員

3. その他特記事項（経済学研究科修士論文要領 3 及び 4 について、該当があればその旨を記載）

社会、公民、商業の専修免許状

既に中学校教諭一種免許状（社会）、または高等学校教諭一種免許状（公民、商業）を取得している者は、本研究科において所定の単位を修得すれば当該教科の専修免許状（中学校、高等学校）を取得することができる。

専攻	教育職員免許状の種類	免許の教科
金融・経済政策専攻	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	公民
企業経営専攻	高等学校教諭専修免許状	商業

教員免許種別授業科目

専攻名	教育・研究分野	授業科目	教員名	免許種別		
				中学校	高校	社会
				公民	商業	
金融 ・ 経 済 政 策	数量経済分析	数理経済分析研究	都築	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		マクロ経済データ分析研究	上山和	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		応用ミクロ経済分析研究	竹村	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		応用計量経済学研究	上山和	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		社会選択理論研究	都築	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		上級マクロ経済学研究	谷	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		動学マクロ経済学研究	谷	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	金融・政策分析	産業組織論研究	竹村	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		金融経済論研究	米倉	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		国際金融・証券論研究		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		国際金融論研究	米倉	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		経済政策論研究	蘭田	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		農業経済論研究	品川	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		公共財政論研究I	納富	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	比較経済	公共財政論研究II	納富	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		制度的経済動学研究	蘭田	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		日本産業経済史研究	金子	<input type="radio"/>		
		近代日本資本主義史研究		<input type="radio"/>		
		日本社会史研究		<input type="radio"/>		
		日本アジア比較経済史研究	金子	<input type="radio"/>		
		経済学史研究	伊藤	<input type="radio"/>		
		経済学方法論研究	伊藤	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		産業史研究		<input type="radio"/>		
		発展途上国経済論研究	ラタナーヤカ	<input type="radio"/>		
	地域・福祉政策	開発経済学研究	ラタナーヤカ	<input type="radio"/>		
		比較労働経済研究I	富田	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		比較労働経済研究II	富田	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		経済地理学研究	戸田	<input type="radio"/>		
		地域経済論研究	戸田	<input type="radio"/>		
		都市経済学研究	亀山	<input type="radio"/>		
		交通経済学研究	亀山	<input type="radio"/>		
		地域福祉研究		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		福祉政策研究		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		行政基礎法研究I	井上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		行政基礎法研究II	井上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		地方自治法制研究		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		地域政治研究	畠山	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		政策評価研究	中西	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
		地方財政研究	中西	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

専攻名	教育・研究分野	授業科目	教員名	免許種別		
				中学校	高校	社会
				公民	商業	
企業	統計情報	情報処理研究				○
		情報システム論研究				○
		地域データ解析研究				○
		情報資源管理研究				○
		応用通信システム研究	安田			○
		経営情報システム研究	羽石			○
		統計情報研究				○
		時系列データ解析研究	中村			○
		応用統計研究	中村			○
		経営財務論研究				○
経営	経営管理	経営史研究	山本			○
		現代労使関係研究Ⅰ	平地			○
		現代労使関係研究Ⅱ	平地			○
		投資決定研究				○
		経営管理史研究	山本			○
		組織論研究Ⅰ	松尾			○
		組織論研究Ⅱ	松尾			○
		企業論研究	三好			○
		法と経済研究	三好			○
		マーケティング論研究				○
会計	会計	流通システム論研究				○
		商業経済論研究	宮崎			○
		流通経済論研究	宮崎			○
		財務会計論研究	山形			○
		簿記論研究	木戸田			○
		管理会計論研究Ⅰ	小川			○
		管理会計論研究Ⅱ	小川			○
		経営分析論研究	山下			○
		国際会計論研究	山下			○
		企業法研究Ⅰ	小西			○
営業	企業関係法	企業法研究Ⅱ	小西			○
		会社法研究				○
		労働関係法研究	早川			○
		国際労働関係法研究	早川			○
		福利厚生関係法研究	丸谷			○
		企業福祉法研究	丸谷			○
		産業経済法研究				○
		経済法研究Ⅰ	岩本			○
		経済法研究Ⅱ	岩本			○
		環境法研究Ⅰ	樺澤			○
		環境法研究Ⅱ	樺澤			○
		民法研究Ⅰ	栗林			○
		民法研究Ⅱ	栗林			○
		契約法研究	中山			○
		刑法研究	内山			○
		経済刑法研究	内山			○
共通科目	情報基礎					
	実用外国语					
単位数	必 要 单 位 数			24以上	24以上	24以上

社会人のための特例による教育の実施について

大学院設置基準第14条では、「修士課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合は、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」と規定され、社会人等の修学に配慮がなされています。

本学大学院経済学研究科では、大学院での履修を希望する社会人に対し、同条に定める教育方法の特例による教育を実施しています。

この概要は、次のとおりです。

- (1) 特例の適用を受ける者は、修業年限2年間にわたり夜間における履修を認められる。
- (2) 特例の適用により履修しようとする者のため、夜間の授業時間帯を2时限（18:00～19:30及び19:40～21:10）設ける。
- (3) 学生には、年度始めに2年間にわたる講義計画を予告し、指導教員の指導のもとに2年間を見通した履修計画を立てさせる。

(注) 一般選抜により入学を許可された社会人にとっても、特例の適用をうけることができる。

経済学研究科規則

(趣 旨)

第1条 佐賀大学大学院経済学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項は、国立大学法人佐賀大学規則（平成16年4月1日制定）、佐賀大学大学院学則（平成16年4月1日制定。以下「大学院学則」という。）及び佐賀大学学位規則（平成16年4月1日制定。以下「学位規則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(研究科の目的)

第1条の2 研究科は、経済学及び経営学・法律学の教育・研究によって幅広い視野と豊かな応用力を培い、知識基礎社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成することを目的とする。

(専攻の目的)

第1条の3 研究科の各専攻の目的は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 金融・経済政策専攻 國際經濟、國民經濟、地域經濟等の諸問題を経済学・法律学の方法により解明し、実践的課題に対応しうる人材を養成すること。
- (2) 企業経営専攻 企業経営等の諸問題を経営学・法律学の方法により解明し、実践的課題に対応しうる人材を養成すること。

(専攻及び講座)

第2条 研究科の専攻に次の講座を置く。

専 攻 名	講 座 名
金融・経済政策専攻	経営システム、地域政策、国際経済社会、経済情報、法政策
企業経営専攻	

(指導教員)

第3条 学生の専攻分野の研究を指導するため、学生ごとに指導教員を置く。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第4条 授業科目、単位数及び履修方法は、佐賀大学大学院経済学研究科履修細則（平成16年4月1日制定）に定めるところによる。

2 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(他の大学院等における授業科目の履修)

第5条 学生は、大学院学則第14条の規定に基づき、他の大学院及び外国の大学院の授業科目を履修することができる。

2 指導教員は、研究指導上必要があると認めるときは、学生が他専攻及び他の研究科の授業科目を履修することを認めることができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第6条 研究科が必要と認めたときは、大学院学則第15条の規定に基づき、学生が大学院に入学する前に大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(他の大学院等における研究指導)

第7条 学生は、大学院学則第17条の規定に基づき、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）において、必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は1年を超えないものとする。

2 指導教員は、研究指導上必要があると認めるときは、学生が他の研究科において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は1年を超えないものとする。

(履修手続)

第8条 履修しようとする授業科目については、各学期とも所定の期間に定められた方法により履修手続をしなければならない。ただし、学期の途中から開始される授業科目については、その都度履修手続をしなければならない。

(成績判定及び単位の授与)

第8条の2 授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績判定は、平素の学修状況、出席状況、学修報告、論文及び試験等によって行う。

3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

(試験)

第9条 試験は、毎学期末又は毎学年末において授業担当教員が行う。

(学位論文の提出)

第10条 学位規則第7条第1項の規定により、修士の学位の授与を受けようとする者は、申請書類とともに、学位論文を指定した期日までに研究科長に提出しなければならない。

(学位論文審査員)

第11条 佐賀大学大学院経済学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）は、修士論文の審査のため、研究科の教員の中から3人以上の学位論文審査員（以下「審査員」という。）を選出し、うち1人を主査とする。

2 前項の規定にかかわらず、学位論文の審査に当たって必要があるときは、研究科委員会の議を経て、他の研究科、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）の教員等を審査員に加えることができる。

(入学者の選考)

第12条 入学者の選考は、その志望する専攻を修めるために必要な学力及び能力について行う。

(研究生及び科目等履修生)

第13条 研究科の教育研究に支障のないときは、研究科委員会の議を経て、研究生及び科目等履修生の入学を認めることができる。

2 研究生及び科目等履修生として入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第52条に定める大学を卒業した者
- (2) 研究科委員会において前号と同等以上の学力があると認められた者

(特別研究学生)

第14条 研究科は、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、他の大学院等の学生が特別研究学生として研究指導を受けることを認めることができる。

(特別聴講学生)

第15条 研究科は、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、他の大学院等の学生が特別聴講学生として授業科目を履修することを認めることができる。

(転入学又は再入学を許可された者の既修得単位等の認定)

第16条 研究科に転入学又は再入学を許可された者が、佐賀大学の大学院又は他の大学院（外国の大学院を含む。）で既に修得した単位数及び在学した期間は、研究科委員会の議を経て通算することができる。

(雑 則)

第17条 この規則に定めるもののほか、研究科に関し必要な事項は、研究科委員会において定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成19年7月20日から施行し、平成19年4月1日から適用する。
- 2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

佐賀大学大学院経済学研究科履修細則

(趣旨)

第1条 佐賀大学大学院経済学研究科規則（平成16年4月1日制定。以下「研究科規則」という。）

第4条の規定に基づく佐賀大学大学院経済学研究科（以下「研究科」という。）の授業科目、単位数及び履修方法は、この細則の定めるところによる。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第2条 授業科目及び単位数は、各専攻ごとに別表I、別表II及び別表IIIに定めるとおりとする。

2 学生は、各専攻ごとに別表I又は別表IIに掲げる自専攻の授業科目から22単位以上（基礎科目から4単位以上、演習I 4単位、演習II 4単位及び総合セミナー2単位を含む。）、自専攻又は他専攻の授業科目から6単位以上、別表IIIの共通科目の中から2単位以上の計30単位以上を履修しなければならない。

3 演習については、演習I、演習IIを2年間にわたり履修するものとする。

ただし、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとし、自専攻の授業科目をもって演習IIに代えることができる。

4 学生（社会人特別選抜により入学した者を除く。）の単位について、研究科規則第4条第2項により夜間に開講される授業科目の単位は、10単位までを限度として第2項に定める単位に含めることができる。ただし、夜間に開講される基礎科目のうち4単位まで及び演習I及び演習IIの単位は、第2項に定める単位に含めることができる一方で、上記の限度に含まれないものとする。

(単位認定)

第3条 研究科規則第5条及び第6条の規定により履修した授業科目の単位数は、6単位を限度として、前条第2項に規定する自専攻又は他専攻の授業科目から6単位以上のうちに含めることができる。

2 別表IVの研究科間共通科目として教育学研究科で開講される科目及び他研究科の提供科目のうち本研究科への受入科目並びに別表Vの地域社会教育研究プログラムに掲げる授業科目の履修による単位数は、前条第2項に規定する自専攻又は他専攻の授業科目から6単位以上のうちに含めることができる。

3 成績評価は、試験、レポート、平素の発表等により行う。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成16年10月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 19 年 3 月 31 日において現に研究科に在学する者は、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 21 年 3 月 31 日において現に研究科に在学する者は、なお従前の例による。

附 則

1 この細則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 22 年 3 月 31 日において現に研究科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 22 年 4 月 1 日以降において在学者の属する年次に転入学または再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 24 年 3 月 31 日において現に研究科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 24 年 4 月 1 日以降において在学者の属する年次に転入学または再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 2 月 6 日改正）

1 この細則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 25 年 3 月 31 日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成 26 年 2 月 5 日改正）

1 この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 26 年 3 月 31 日において現に研究科に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表 I (第2条関係)

金融・経済政策専攻

科目区分	教育・研究分野	授業科目	単位数	備考
基礎科目		金融経済論研究 公共財政論研究I 行政基礎法研究I 社会選択理論研究 政策評価研究	2 2 2 2 2	4単位選択必修
専門科目	数量経済分析	数理経済分析研究 マクロ経済データ分析研究 応用ミクロ経済分析研究 産業組織論研究 応用計量経済学研究 動学マクロ経済学研究 上級マクロ経済学研究	2 2 2 2 2 2 2	
	金融・政策分析	国際金融・証券論研究 国際金融論研究 国際経済政策研究 農業経済論研究 公共財政論研究II 経済政策論研究 制度的経済動学研究	2 2 2 2 2 2 2	
	比較経済	日本産業経済史研究 近代日本資本主義史研究 日本社会史研究 日本アジア比較経済史研究 経済学史研究 経済学方法論研究 産業史研究 発展途上国経済論研究 国際関係論研究 開発経済学研究 比較労働経済研究I 比較労働経済研究II	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
	地域・福祉政策	経済地理学研究 地域経済論研究 都市経済学研究 交通経済学研究 地域福祉政策研究 行政基礎法研究II 地方自治法制研究 地域政治研究 地方財政研究	2 2 2 2 2 2 2 2 2	
		演習I 演習II 総合セミナー フィールドワークI(金融・経済政策) フィールドワークII(金融・経済政策)	4 4 2 2 2	演習I, 演習II, 総合セミナーは 必修

別表II（第2条関係）

企業經營專攻

別表III（第2条関係）

共通科目

教育・研究分野	授業科目	単位数	備考
共通科目	情報基盤 実用外國語	2 2	選択必修

別表IV（第3条関係）

研究科間共通科目

教育・研究分野	授業科目	単位数	備考
共通科目	地理学特論 A I	2	教育学研究科において開講
	地理学特論 B I	2	
	法律学特論 A I	2	
	法律学特論 B I	2	
	経済学特論 I	2	
	国際経済学特論 I	2	
	人権教育特論	2	他研究科の提供科目 (教育学研究科による提供科目)
	西洋史特論 A I	2	

別表V（第3条関係）

地域社会教育研究プログラム

(地域学歴史文化研究センターが提供するセンター教育プログラム)

教育・研究分野	授業科目	単位数	備考
地域社会教育研究 プログラム	経営史研究	2	※企業経営専攻において隔年開講
	経営管理史研究	2	
	地域科学技術史	2	
	地域史研究特論	2	※※教育学研究科において開講
	日本文学思潮II	2	
	考古学特論II	2	
	日本史特論B II	2	

注)「経営史研究」及び「経営管理史研究」については、別表IIのとおり企業経営専攻の授業科目として扱うものとする。

開 講 科 曰

開 講 科 目

金融・経済政策専攻					平成26年度		平成27年度	
科目区分	分野	教員名	授業科目名	単位	前期	後期	前期	後期
基礎科目		納富 一郎	公共財政論研究Ⅰ	2			●	
		井上 亜紀	行政基礎法研究Ⅰ	2				○
		中西 一	政策評価研究	2	○			
		都築 治彦	社会選択理論研究	2			○	
		米倉 茂	金融経済論研究	2	●			
専門科目	数量経済分析	上山 和俊	マクロ経済データ分析研究	2			●	
			応用計量経済学研究	2	○			
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		都築 治彦	数理経済分析研究	2	●			
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		谷 晶紅	上級マクロ経済学研究	2		●		
			動学マクロ経済学研究	2				○
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		竹村 敏彦	応用ミクロ経済分析研究	2			●	
			産業組織論研究	2	○			
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
	金融・政策分析	米倉 茂	国際金融論研究	2			○	
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		品川 優	農業経済論研究	2	●		○	
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		納富 一郎	公共財政論研究Ⅱ	2	○			
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
	比較経済	菌田竜之介	経済政策論研究	2		●		
			制度的経済動学研究	2				○
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		金子 晋右	日本産業経済史研究	2				○
			日本アジア比較経済史研究	2		●		
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		伊藤 正哉	経済学史研究	2	○			
			経済学方法論研究	2			●	
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		ラタナーヤカ・ピヤダーサ	発展途上国経済論研究	2				●
			開発経済学研究	2		○		
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		富田 義典	比較労働経済研究Ⅰ	2				●
			比較労働経済研究Ⅱ	2		○		
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				

○印は昼間に開講することを示す。

●印は夜間に開講することを示す。

金融・経済政策専攻					平成26年度		平成27年度	
科目区分	分野	教員名	授業科目名	単位	前期	後期	前期	後期
専門科目	地域・福祉政策	戸田 順一郎	経済地理学研究	2				○
			地域経済論研究	2		●		
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		亀山 嘉大	都市経済学研究	2		○		
			交通経済学研究	2				●
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		井上 亞紀	行政基礎法研究Ⅱ	2		●		
			演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
			地域政治研究	2	●		○	
		畠山 敏夫	演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
			地方財政研究	2			●	
		中西 一	演習Ⅰ	4				
			演習Ⅱ	4				
		全教員		フィールドワーク	2	○●	○●	○●
		全教員		総合セミナー	2	○●	○●	○●

○印は昼間に開講することを示す。

●印は夜間に開講することを示す。

企 業 経 営 専 攻					平成26年度		平成27年度	
科目区分	分野	教員名	授業科目名	単位	前期	後期	前期	後期
基礎科目			経営財務論研究	2				
		宮崎 卓朗	流通経済論研究	2	●			
		山下 寿文	経営分析論研究	2				●
		岩本 諭	経済法研究 I	2				●
		中山 泰道	契約法研究	2	●		○	
経営情報	安田 伸一		応用通信システム研究	2	○			
			演習 I	4				
			演習 II	4				
	羽石 寛志		経営情報システム研究	2				○
			演習 I	4				
			演習 II	4				
	中村 博和		時系列データ解析研究	2				○
			応用統計研究	2		●		
			演習 I	4				
			演習 II	4				
	平地 一郎		現代労使関係研究 I	2				○
			現代労使関係研究 II	2		●		
			演習 I	4				
			演習 II	4				
	山本 長次		経営史研究	2				●
			経営管理史研究	2		○		
			演習 I	4				
			演習 II	4				
	松尾 陽好		組織論研究 I	2			●	
			組織論研究 II	2	○			
			演習 I	4				
			演習 II	4				
	三好 祐輔		企業論研究	2			●	
			法と経済研究	2	○			
			演習 I	4				
			演習 II	4				
	(非常勤講師・岩永)		流通システム論研究	2	○			
		宮崎 卓朗	商業経済論研究	2			○	
			演習 I	4				
			演習 II	4				

○印は昼間に開講することを示す。

●印は夜間に開講することを示す。

企 業 経 営 専 攻					平成26年度		平成27年度		
科目区分	分野	教員名	授業科目名	単位	前 期	後 期	前 期	後 期	
会 計	山形 武裕	財務会計論研究	2			●		○	
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	木戸田 力	簿記論研究	2	●		○			
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	小川 哲彦	管理会計論研究Ⅰ	2					○	
		管理会計論研究Ⅱ	2		●				
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	山下 寿文	国際会計論研究	2		○				
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
専 門 科 目	小西 みも恵	企業法研究Ⅰ	2					●	
		企業法研究Ⅱ	2		○				
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	早川 智津子	労働関係法研究	2					●	
		国際労働関係法研究	2		○				
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	丸谷 浩介	福利厚生関係法研究	2				●		
		企業福祉法研究	2	○					
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	岩本 諭	経済法研究Ⅱ	2		○				
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	樺澤 秀木	環境法研究Ⅰ	2				○		
		環境法研究Ⅱ	2	●					
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	栗林 佳代	民法研究Ⅰ	2	●					
		民法研究Ⅱ	2				○		
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	中山 泰道	演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
	内山真由美	刑法研究	2	○					
		経済刑法研究	2				●		
		演習Ⅰ	4						
		演習Ⅱ	4						
全教員		フィールドワーク	2	○●	○●	○●	○●		
全教員		総合セミナー	2	○●		○●			

○印は昼間に開講することを示す。

●印は夜間に開講することを示す。

共 通 科 目					平成26年度		平成27年度	
科目区分	分野	教員名	授業科目名	単位	前 期	後 期	前 期	後 期
共 通 科 目	安田 伸一 羽石 寛志	情報基礎	2				●	
					●			
	マッカーサー ジョン ダグラス	実用外国語	2		○ ●		○ ●	

○印は昼間に開講することを示す。

●印は夜間に開講することを示す。

演習Ⅰ・Ⅱの履修について

1. いずれかの時間帯に原則として、1コマ開講する。（通年制）
2. 初年度に履修した演習を「演習Ⅰ」、2年度目に履修した演習を「演習Ⅱ」として扱う。
3. 演習は2年間にわたって履修するが、演習担当者は2年にわたって同一でも良いし、別々の担当者を選んでも良い。

講 義 概 要

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	30785100																
科目名	政策評価研究																
担当教員（所属）	中西 一（経済学部）																
単位数	2																
曜日・校時	火曜 3 時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式																	
学士力番号																	
講義概要	政策分析（政策形成）及び政策評価についての実践的で基礎的な訓練を行う。このことは経済学や社会科学の基礎を固める性格をもっているので、研究に従事する学生の支援としても適切なテーマである。授業は講義形式で行い、学生に輪読後の報告などは課さないが授業中に作成する課題発表がある。場合によっては課題を作ってきてもらって発表してもらうこともあるかもしれない。これが受講者が日本語能力を一定満たす場合であるが、そうでない場合は政策評価に関する日本語ないし日本語訳のテキストを利用して学生の日本語読解のサポートを行う。																
開講意図	上記の通り。																
到達目標	大学院での研究生活が円滑に行いうるよう、サポートを意図している。																
聴講指定																	
履修上の注意																	
授業計画	現在のところ未定だが学部講義を参考としてアレンジして作成する。																
成績評価の方法と基準	平素の態度。																
開示する試験問題等	試験は行わない。																
開示方法	不要。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教科書は利用しない方針。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	教科書は利用しない方針。							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
教科書は利用しない方針。																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)								
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL												
名称	URL																
オフィスアワー	水2																
その他																	

開講年度	2014	開講時期	前学期																		
科目コード	30570000																				
科目名	金融経済論研究																				
担当教員（所属）	米倉 茂（経済学部）																				
単位数	2																				
曜日・校時	火曜 6 時限																				
曜日・校時 追記	火曜6時限目																				
講義形式	ゼミナー方式。参加者の読み合わせるテキストの内容理解の報告をさせる																				
学士力番号	(2) 現代社会と生活 (現代社会の分野)																				
講義概要	学生が行う報告を軸にして教員が問題、質問を提起し、学生が答える。次に学生の質問事項を受け入れる。																				
開講意図	金融の醍醐味を味わってもらうこと。無から有を作る金融鍊金術の世界的展開の破たんとしてリーマン・ショック、ユーロ・ソブリン危機の意義を確認してもらい、金融危機の特質を把握してもらう。																				
到達目標	世界的金融危機の発生の構造を理解してもらうこと。中央銀行と財務相が金融安定、通貨安定、物価安定においていかに重要な機能を果たしているのか把握してもらう。																				
聴講指定	学部で米倉が開講する金融論も聴講することが好ましい。																				
履修上の注意	経済研究科の大学院生が参加。他も自主的参加は歓迎																				
授業計画	以下、15回に分けて行う。 (1) リーマン・ショックのすさまじさのおさらい (2) マイケルジャクソン何も金融スリラー (3) リーマン・ショックの波及の起点となったMMF取り付け騒動 (4) ドルを世界に供給する立場の米国中央銀行 (5) 信用リスクのたらい回しの構造 (1) (6) 信用リスクのたらい回しの構造 (2) (7) ウオール街の仁義なき戦い (8) リーマン・ショックの引き金になった世界的な金融レバリッジの流行 (9) 高レバリッジみんなで借りれば怖くないの世界的流行 (10) サブプライム問題の怖さ (11) イラクでなくマンハッタンに見つかった金融上の大量破壊兵器の大爆発 (12) 信用リスクの計量の困難性 (13) リーマン・ショックで確認されたドルの世界的地位 (14) リーマン・ショック金融地獄百景 (15) リーマン・ショックがユーロ・ソブリン危機を誘発する経路																				
成績評価の方法と基準	四回の豆テストと定期試験の総合的点数の合算で評価																				
開示する試験問題等	豆テストと定期資金の問題の解答例は資金実施直後毎に配布し、解題する。																				
開示方法	豆テストと定期資金の問題の解答例は資金実施直後毎に配布し、解題する。その紙は講義、試験の後に配布する。																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新型ドル恐慌（彩流社、2009年）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新型ドル恐慌：リーマン・ショックから学ぶべき教訓</td> <td></td> <td>米倉茂著</td> <td>彩流社</td> <td>2009</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	新型ドル恐慌（彩流社、2009年）						新型ドル恐慌：リーマン・ショックから学ぶべき教訓		米倉茂著	彩流社	2009			
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																
新型ドル恐慌（彩流社、2009年）																					
新型ドル恐慌：リーマン・ショックから学ぶべき教訓		米倉茂著	彩流社	2009																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すぐわかるユーロ危機の真相 (言視舎、2012年)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	すぐわかるユーロ危機の真相 (言視舎、2012年)													
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																
すぐわかるユーロ危機の真相 (言視舎、2012年)																					
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL																		
名称	URL																				
オフィスアワー	火曜簿の5時限目																				
その他	金融の醍醐味を楽しむ材料を常に見つけるよう努力してください。																				

開講年度	2014	開講時期	前学期															
科目コード	30551500																	
科目名	応用計量経済学研究																	
担当教員（所属）	上山 和俊（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	月曜 3 時限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式	ゼミ形式																	
学士力番号	【学士力番号 2-(2), 3-(2)】																	
講義概要	経済現象を数理的および定量的に計量経済学の手法を用いて分析することによって、現実の経済現象についての理解が深まり、現代経済のさまざまな分野において政策的課題や実践的な問題の解決にも応用することができる。 本講義では、現実の経済統計データを用いた実証分析の手法やその分析結果について考察する。																	
開講意図	経済現象の諸問題について計量経済学的手法によって解決する方法論について考察する。																	
到達目標	経済データを用いた実証分析に関する評価・分析能力の修得。																	
聴講指定																		
履修上の注意																		
授業計画	経済データを用いた実証分析に関する文献の輪読と報告。各回の課題：授業内容の整理と復習。																	
成績評価の方法と基準	報告および授業参加状況等を重視する。																	
開示する試験問題等	経済学部「成績評価問い合わせ用オフィスアワー」時に希望者に開示する。																	
開示方法	成績評価については、該当学年の経済学部「成績評価問い合わせ用オフィスアワー」時に希望者(履修登録した本人)のみ受け付ける。このオフィスアワーについては追って指示する。																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講生のレベルにあわせて決定する予定である。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	受講生のレベルにあわせて決定する予定である。					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
受講生のレベルにあわせて決定する予定である。																		
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参考図書・文献については、適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	参考図書・文献については、適宜紹介する。					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
参考図書・文献については、適宜紹介する。																		
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>U R L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						名称	U R L										
名称	U R L																	
オフィスアワー	質問等については授業終了時やメールなどで原則随時。オフィスアワーについては追って指示する。																	
その他																		

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	30561700																
科目名	数理経済分析研究																
担当教員（所属）	都築 治彦（経済学部）																
単位数	2																
曜日・校時	木曜 7時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式																	
学士力番号																	
講義概要	ミクロ経済学とは、経済主体である個々の消費者や企業（生産者）を分析対象とし、消費者や企業の行う合理的な経済行動や、取引の場である市場、そして、取引の結果として生じる資源配分について研究する学問である。最も基本的な市場である完全競争市場では、市場メカニズムがうまく機能して、望ましい市場均衡が達成されることになる。一方で、現実の経済は非常に複雑であり、完全競争の前提をおくことが不適当な不完全競争状態も多数存在する。ここでは、完全競争市場の理論をふまえて、このような不完全競争市場について、ゲーム理論の手法を用いるなどして分析を行う。																
開講意図	現代経済社会を理解するために必要不可欠な理論であるゲーム理論の基礎的な理論について学ぶ。																
到達目標	ゲーム理論の基礎である、戦略形、展開形、ゲームの解概念であるナッシュ均衡や部分ゲーム完全均衡、そしてビジネスの問題など現代経済社会への応用などについて理解する。																
聴講指定																	
履修上の注意																	
授業計画	1 ゲーム理論とは 2 戰略形ゲーム 3 支配戦略均衡とナッシュ均衡 4 混合戦略とナッシュ均衡 5 展開形ゲーム 6 ゲームツリーと情報集合 7 混合戦略と行動戦略 8 後ろ向き帰納法 9 部分ゲーム完全均衡 10 繰り返しゲーム 11 不完全競争市場について 12 複占市場のゲーム理論的分析 13 情報の不確実性 14 逆選択とモラルハザード 15 プリンシバル・エージェント問題とインセンティブ・コンパティビリティ																
成績評価の方法と基準	平素の成績により行う																
開示する試験問題等	平素の成績により判定する。																
開示方法	平素の成績により判定する。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適宜指示する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	適宜指示する					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
適宜指示する																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					名称	URL										
名称	URL																
オフィスアワー	講義開始前後																
その他																	

開講年度	2014	開講時期	前学期												
科目コード	30551700														
科目名	産業組織論研究														
担当教員（所属）	竹村 敏彦（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	火曜 4 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式	ゼミ形式（受講者の関心を考慮した上で、受講者によるいくつかのテーマに即した国内外の最新論文の報告、もしくは関連書籍の輪読を行う。）														
学士力番号															
講義概要	産業組織論とは、産業の組織構造や参加者（企業や消費者など）の行動を分析・評価し、経営戦略や公共政策への理論的・実証的な基礎（経済活動の効率性や取り組みなどについての知見）を与えることを目的とする学問である。本講義では、ミクロ経済学やゲーム理論の知識を用いて、理論的側面から企業行動、競争政策および政府規制についての基礎的な知識を習得するとともに、それを踏まえた経済事象を分析ができるようになることを目標とする。														
開講意図	本講義では、現代の産業経済の構造と変化を理解するために必要な理論的枠組みを、主に情報通信技術の経済学に関する実証データで補完して理解を深めることを目的とする。														
到達目標	産業組織論の基本的な知識を習得し、それを用いて経済事象を分析できるようになることを到達目標とする。														
聴講指定															
履修上の注意	経済数学、ミクロ経済学、計量経済学などの知識をある程度持っていることが望ましい。														
授業計画	本講義で取り扱うテーマは以下の通りである。														
成績評価の方法と基準	平常点（出席、発表、討論における貢献度）（70%）とレポート（30%）により総合的に判断する。														
開示する試験問題等	配布資料等														
開示方法	本人の申し出により直接開示する。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキスト・論文については初回の講義で指示する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	テキスト・論文については初回の講義で指示する。							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
テキスト・論文については初回の講義で指示する。															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>The Handbook of Organizational Economics</td> <td></td> <td>Gibbons R., Roberts, J.</td> <td>Princeton University Press</td> <td>2012</td> <td>978-0691132792</td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	The Handbook of Organizational Economics		Gibbons R., Roberts, J.	Princeton University Press	2012	978-0691132792		
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
The Handbook of Organizational Economics		Gibbons R., Roberts, J.	Princeton University Press	2012	978-0691132792										
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	随時。ただし、事前にメールで予約すること。アドレスはtosihiko@cc.saga-u.ac.jp														
その他															

開講年度	2014	開講時期	前学期																		
科目コード	30626500																				
科目名	農業経済論研究																				
担当教員（所属）	品川 優（経済学部）																				
単位数	2																				
曜日・校時	月曜 7時限																				
曜日・校時 追記																					
講義形式	演習形式																				
学士力番号																					
講義概要	高度成長以降、我が国の農山村は国土開発とリンクする形で展開してきた。しかし、拠点開発方式による国土開発は機能せず、過疎問題、中山間地域問題、限界集落問題と問題の軸足を移しつつ、農山村は後退している。その一方で、2000年前後以降、農山村自らが地域の産業・資源・人を活かした農村開発を転換している。こうした動きに対し、国・自治体も農商工連携や6次産業化を支援する動きが強まっている。本講義では、農山村をめぐる動きとその問題・課題について学ぶことを目的とする。																				
開講意図	高度成長以降、わが国の農村で生じている過疎問題、中山間地域問題、限界集落問題について、その発生要因と現状、それに対する国・自治体の支援、地域住民による再生取り組みについて適切に把握・理解できる能力を身につける。																				
到達目標	農山村を巡る諸問題（過疎、中山間地域、限界集落）に関する専門知識を習得する。 従来の外発的発展と最近の内発的発展の相違、問題点について理解する。 これら諸問題に対する国・行政の対応について理解する。																				
聴講指定																					
履修上の注意																					
授業計画	<p>前半は、『農山村再生に挑む』を用いて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①農山村の位置付け ②国土開発による農山村振興 ③地域資源を活かした農村開発、6次産業化 ④農山村の生活・コミュニティ問題 ⑤EUにおける農村開発の実践について考察する。 <p>後半は、『地域再生のフロンティア』に依拠して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①過疎問題、中山間地域問題、限界集落問題への接近 ②集落を補完する「手づくり自治区」の実践実態 ③集落営農を軸とした農村開発 ④農山村における女性の役割と活用 ⑤農村開発における自治体の役割、有り様 ⑥地域資源を活かした新たな産業戦略 ⑦農村への定住促進政策について考察する。 <p>以上を踏まえ、農村開発の意義と地域再生のかたちについてまとめる。</p> <p>※各担当者が報告し、それをめぐって議論を行う。参加者は、必ず事前に読んでおくこと。また、各自疑問点・問題点を指摘すること。</p>																				
成績評価の方法と基準	報告・討論の内容により総合的に評価する（平常点）。																				
開示する試験問題等	平常点評価に関するもの。																				
開示方法	オフィスアワー時に研究室において開示する。																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農山村再生に挑む</td> <td></td> <td>小田切徳美</td> <td>岩波書店</td> <td>2013</td> <td></td></tr> <tr> <td>地域再生のフロンティア</td> <td></td> <td>小田切徳美</td> <td>農文協</td> <td>2013</td> <td></td></tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	農山村再生に挑む		小田切徳美	岩波書店	2013		地域再生のフロンティア		小田切徳美	農文協	2013			
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																
農山村再生に挑む		小田切徳美	岩波書店	2013																	
地域再生のフロンティア		小田切徳美	農文協	2013																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td></tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td></tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)														
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>U R L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td></tr> <tr> <td></td> <td></td></tr> </tbody> </table>	名称	U R L																		
名称	U R L																				
オフィスアワー	月曜 3限																				
その他																					

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	30637200	開講時期	前学期														
科目名	公共財政論研究Ⅱ																
担当教員（所属）	納富一郎（経済学部）																
単位数	2	開講時期	前学期														
曜日・校時	水曜2時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式	セミナー形式。テキスト資料を配付、学生諸君の発表とディスカッション。																
学士力番号	2 課題発見・解決能力 (2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力																
講義概要	<日本の財政赤字の原因と財政再建の方策>について考える。この問題・テーマについてのいくつかの論文を読みます。分担して担当者が報告する、それをもとに学生諸君とディスカッションすることにより、問題について理解力を深める。																
開講意図	財政問題を深く理解するために複数の論文を読み、多様な分析方法や主張を整理・理解すること、さらに進んでデータや資料を収集する能力を身につける。																
到達目標	いくつかのスキルを身につけることを目標とする 1 論文を要約する能力 2 内容を整理して考えを発表する能力 3 発表を聴いて、質問する、相互の理解を深める能力																
聴講指定	修士課程学生																
履修上の注意	いくつかの論文があるのでそのコピーを準備してください																
授業計画	配布する資料を必ず読んでから出席すること 整理して、発表する、討論する。 1 イントロダクション 2 小峰隆夫ほか『最新【第4版】日本経済入門』第11章を読む 3 同上 4 畑能銳夫ほか『財政学をつかむ』第7章を読む 5 同上 6 持田信樹『財政学』第11章を読む 7 浅子和美ほか『入門・日本経済』第8章を読む 8 同上 9 吉川洋『転換期の日本経済』第6章を読む 10 日本財政学会編『なぜ財政再建ができないのか』を読む 11 湯本雅士『日本の財政 何が問題か』を読む 12 同上 13 田中秀明『日本の財政』を読む 14 同上 15 1~14のまとめ																
成績評価の方法と基準	報告・ディスカッションなど平素の学習態度を評価します																
開示する試験問題等	試験は実施しません																
開示方法	試験は実施しません																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本の財政赤字・財政再建について書かれたいいくつかの論文</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	日本の財政赤字・財政再建について書かれたいいくつかの論文					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
日本の財政赤字・財政再建について書かれたいいくつかの論文																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>授業計画に記載した文献</td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						授業計画に記載した文献
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
					授業計画に記載した文献												
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					名称	URL										
名称	URL																
オフィスアワー	火曜日V時間目																
その他																	

開講年度	2014	開講時期	前学期																																																
科目コード	30681000																																																		
科目名	経済学史研究																																																		
担当教員（所属）	伊藤 正哉（経済学部）																																																		
単位数	2																																																		
曜日・校時	火曜1限																																																		
曜日・校時 追記																																																			
講義形式																																																			
学生力番号																																																			
講義概要	<p>ジョン・マイナード・ケインズといえば、何よりも一国の財政・金融政策に対する理論的基礎づけが思い浮かばれるだろう。しかし他方で、一国経済の次元にとどまらず、自由貿易主義対保護貿易主義、国際通貨体制や資本移動規制のあり方といった国際経済の領域においても、ケインズは依然として注目されつづけている。</p> <p>ケインズ国際経済論の全体像の確立に大きく貢献したものとしては、ロイ・ハロッドの『ケインズ伝』があげられるだろう。だとすれば、ケインズ的国際経済認識の今日的発展を追求するためには、ハロッド自身の国際経済論もまた、十分な検討を受ける必要があるはずである。そこで本講義では、ハロッドの国際経済学関連の著作を精読し、ケインズ的国際経済認識の今日的な意義と限界を検討していく。</p> <p>講義は、まず担当教員が解説を行い、その後、履修者から疑問点や論点を出してもらい全員で議論する、という流れで進めしていく。履修者には相当の予習が要求されることに留意されたい。</p>																																																		
開講意図	現代の国際経済と国際通貨に対する見識を深めるために、ケインズとハロッドの国際経済論について理解する。																																																		
到達目標	<p>(1) ケインズとハロッド、それぞれの国際経済認識と、両者間の継承と断絶の関係を理解できる。</p> <p>(2) 国際貿易の基礎理論と国際通貨の制度的仕組みについて、基本的内容を理解できる。</p>																																																		
聴講指定																																																			
履修士の注意	経済学史に関する知識の有無は全く問わないが、マクロ経済学および国際通貨の学部水準の内容を習得していること。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第1章 序論</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第2章 外国貿易上の利益（1）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第2章 外国貿易上の利益（2）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第3章 可能的な利益と現実的な利益</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第3章 可能的な利益と現実的な利益</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第4章 比較価格水準（1）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第4章 比較価格水準（2）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第5章 外国為替（1）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第5章 外国為替（2）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第6章 貿易差額（1）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第6章 貿易差額（2）</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第7章 不均衡の是正</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第8章 改革への途</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第9章 1958年以後</td> <td>授業の復習と予習を行う。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ハロッド『国際経済学』 第10章 再生した恐慌</td> <td>授業全体の復習を行い、レポートを作成する。</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容	授業以外の学習	1	ハロッド『国際経済学』 第1章 序論	授業の復習と予習を行う。	2	ハロッド『国際経済学』 第2章 外国貿易上の利益（1）	授業の復習と予習を行う。	3	ハロッド『国際経済学』 第2章 外国貿易上の利益（2）	授業の復習と予習を行う。	4	ハロッド『国際経済学』 第3章 可能的な利益と現実的な利益	授業の復習と予習を行う。	5	ハロッド『国際経済学』 第3章 可能的な利益と現実的な利益	授業の復習と予習を行う。	6	ハロッド『国際経済学』 第4章 比較価格水準（1）	授業の復習と予習を行う。	7	ハロッド『国際経済学』 第4章 比較価格水準（2）	授業の復習と予習を行う。	8	ハロッド『国際経済学』 第5章 外国為替（1）	授業の復習と予習を行う。	9	ハロッド『国際経済学』 第5章 外国為替（2）	授業の復習と予習を行う。	10	ハロッド『国際経済学』 第6章 貿易差額（1）	授業の復習と予習を行う。	11	ハロッド『国際経済学』 第6章 貿易差額（2）	授業の復習と予習を行う。	12	ハロッド『国際経済学』 第7章 不均衡の是正	授業の復習と予習を行う。	13	ハロッド『国際経済学』 第8章 改革への途	授業の復習と予習を行う。	14	ハロッド『国際経済学』 第9章 1958年以後	授業の復習と予習を行う。	15	ハロッド『国際経済学』 第10章 再生した恐慌	授業全体の復習を行い、レポートを作成する。
回	内 容	授業以外の学習																																																	
1	ハロッド『国際経済学』 第1章 序論	授業の復習と予習を行う。																																																	
2	ハロッド『国際経済学』 第2章 外国貿易上の利益（1）	授業の復習と予習を行う。																																																	
3	ハロッド『国際経済学』 第2章 外国貿易上の利益（2）	授業の復習と予習を行う。																																																	
4	ハロッド『国際経済学』 第3章 可能的な利益と現実的な利益	授業の復習と予習を行う。																																																	
5	ハロッド『国際経済学』 第3章 可能的な利益と現実的な利益	授業の復習と予習を行う。																																																	
6	ハロッド『国際経済学』 第4章 比較価格水準（1）	授業の復習と予習を行う。																																																	
7	ハロッド『国際経済学』 第4章 比較価格水準（2）	授業の復習と予習を行う。																																																	
8	ハロッド『国際経済学』 第5章 外国為替（1）	授業の復習と予習を行う。																																																	
9	ハロッド『国際経済学』 第5章 外国為替（2）	授業の復習と予習を行う。																																																	
10	ハロッド『国際経済学』 第6章 貿易差額（1）	授業の復習と予習を行う。																																																	
11	ハロッド『国際経済学』 第6章 貿易差額（2）	授業の復習と予習を行う。																																																	
12	ハロッド『国際経済学』 第7章 不均衡の是正	授業の復習と予習を行う。																																																	
13	ハロッド『国際経済学』 第8章 改革への途	授業の復習と予習を行う。																																																	
14	ハロッド『国際経済学』 第9章 1958年以後	授業の復習と予習を行う。																																																	
15	ハロッド『国際経済学』 第10章 再生した恐慌	授業全体の復習を行い、レポートを作成する。																																																	
成績評価の方法と基準	平常点50%（発言内容、討論における貢献度などを総合して評価する）、授業内容に関する期末レポート（50%）として評価する。 目標（1）は期末レポート、目標（2）は、発言内容や討論の参加状況で評価する。																																																		
開示する試験問題等	解答例と配点																																																		
開示方法	<p>1) 履修者全員の成績が確定した後、開示する。</p> <p>2) 開示を希望する学生は、その旨申し出ること。</p>																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業で用いる文献は、担当教員から配布される。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	授業で用いる文献は、担当教員から配布される。																																									
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																														
授業で用いる文献は、担当教員から配布される。																																																			
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適宜担当教員から指示される。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	適宜担当教員から指示される。																																									
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																														
適宜担当教員から指示される。																																																			
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL																																														
名称	URL																																																		
オフィスアワー	木曜4校時																																																		
その他																																																			

開講年度	2014	開講時期	前学期												
科目コード	30774000														
科目名	地域政治研究														
担当教員（所属）	畠山 敏夫（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	木曜 6 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式															
学士力番号															
講義概要	先進社会と一言でいっても多様な社会経済的個性が見られる。本授業では、「ヨーロッパ社会モデル」と呼ばれるような特徴ある経済社会のあり方を築いてきたヨーロッパを対象にして授業を進める。ヨーロッパは現在、ユーロ危機に苦しんでいるが、フランスを題材にしてEU統合の危機のなかでの国民国家について考えてみたい。フランス革命から「共和国の統合モデル」として国民を国民共同体に統合してきた国であるフランスを中心にとりあげ、そのような統合の手段として平等や連帯の価値に依拠して、フランス版福祉国家を築いてきたことを学び、経済社会の危機とグローバル化しつつある世界のなかで、「フランス的社会モデル」が直面している困難と、そのモデルがもっている有効性を考えてみたい。また、移民問題をテコに台頭しつつあるポピュリズム政治についても取り上げてみる。														
開講意図	深く検討することなく「小さな政府」がいいといった風潮が支配する現在だからこそ、福祉国家の役割と意義について考えてみたい。														
到達目標	アメリカ・モデルの社会だけではなく、先進社会も多様な個性をもっていること、21世紀の現在、どのような経済社会モデルが国民にとって有益化を考える基礎的な知識と情報を得ることが、本授業の到達目標である。														
聴講指定															
履修上の注意															
授業計画	本授業のテキストは適当な教材のコピーを配布し、授業の進行については最初の講義で説明する。最初に、高橋進・石田徹変『ポピュリズム時代のデモクラシー』（法律文化社、2013年）を教材にコピーを配布して学修をはじめる。その後は福祉国家や原発と政治など、ヨーロッパの直面しているテーマについて教材を配布して学ぶことにする。														
成績評価の方法と基準	平常点を中心に評価する。														
開示する試験問題等	試験は実施しない。														
開示方法	試験は実施しない。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキストは使わずに、授業中にプリントを配布する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	テキストは使わずに、授業中にプリントを配布する。					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
テキストは使わずに、授業中にプリントを配布する。															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL										
名称	URL														
オフィスアワー	少人数クラスのため、隨時、希望に応じて面談する。														
その他															

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	30905200																
科目名	流通経済論研究																
担当教員（所属）	宮崎 卓朗（経済学部）																
単位数	2																
曜日・校時	火曜 6 時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式	講義形式と演習形式を交互に行う。																
学士力番号	2の(1)、3の(1)																
講義概要	現代の小売業はさまざまな業態に分かれている。またそれぞれの業態は国により発展の程度や小売業界全体の中での重要性が異なる。そのことを反映して個々の業態でも国により形態に差がみられる。本講義は日本において重要であると考えられている業態をいくつか取り上げ、それぞれの業態の日本の発展の特徴と、それぞれの業態が抱える問題点を解説する。																
開講意図	消費者として生活するためには購買活動は不可避である。その購買活動に潜む消費者問題を理解するためには、現代の流通を理解しなければならない。また現代の流通を理解するためには、個々の小売業態の特徴を理解する必要がある。各小売業態の特徴を理解することで、各小売業態固有の問題点を理解する力や、小売企業の戦略的意図を理解する力を身につける。																
到達目標	消費生活を送る上で必要となる小売業態に関する基礎知識を身につけることが目標である。																
聴講指定																	
履修上の注意																	
授業計画	1 ガイダンス 2 日本の百貨店の特徴 3 日本の百貨店が抱える問題点 4 日本の総合スーパーの発展の特徴 5 日本のGMSの抱える問題 6 日本の食品スーパーの特徴 7 日本の食品スーパーの問題点 8 日本型コンビニエンス・ストアの成立 9 日本型コンビニエンス・ストアの事業システム 10 日本型コンビニエンス・ストアの問題点 11 カテゴリー・キラーの成長（家電量販店） 12 カテゴリー・キラーの成長（アパレル） 13 カテゴリー・キラーの成長（ドラッグストア） 14 日本の小売業態の変遷 15 講義のまとめ																
成績評価の方法と基準	平素の成績とレポートで採点する。																
開示する試験問題等	成績評価用いたすべての資料																
開示方法	開示を希望する者に研究室で開示する。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回の講義の際に次回のテキストとなる論文を配布する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	前回の講義の際に次回のテキストとなる論文を配布する					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
前回の講義の際に次回のテキストとなる論文を配布する																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					名称	URL										
名称	URL																
オフィスアワー	火曜日 7 校目																
その他																	

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	31023000																
科目名	契約法研究																
担当教員（所属）	中山 泰道（経済学部）																
単位数	2																
曜日・校時	木曜 7時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式	とりあげる課題について担当者を定め、報告してもらい、これを基に参加者で議論をし、理解を深める。																
学士力番号																	
講義概要	現代社会で用いられている、種々の契約について、その問題点を学説、裁判の検討を通して明らかにする。																
開講意図	現代社会で用いられている、種々の契約について、その問題点を裁判例を通じて明らかにする。並行して契約法の基礎的理解を深める。																
到達目標	契約法の基礎的理解と現実に用いられている契約についての基礎的理解を得ること。 学士力との対応 3個人と社会の持続的発展を支える力 (2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力																
聴講指定																	
履修上の注意	六法は必ず持参すること。																
授業計画	取り上げる契約については、消費者売買に関するもの、与信契約に関するものを予定している。これについては受講者の希望を聞いたうえで、決定する。																
成績評価の方法と基準	平常の報告、議論への参加度、出席を総合評価して決定する。																
開示する試験問題等	特になし。																
開示方法	特になし。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費者法判例百選</td> <td></td> <td>廣瀬久和 河上正二編</td> <td>有斐閣</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	消費者法判例百選		廣瀬久和 河上正二編	有斐閣		
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
消費者法判例百選		廣瀬久和 河上正二編	有斐閣														
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>商取引法</td> <td></td> <td>江頭憲治郎</td> <td>有斐閣</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	商取引法		江頭憲治郎	有斐閣		
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
商取引法		江頭憲治郎	有斐閣														
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					名称	URL										
名称	URL																
オフィスアワー	月曜 2																
その他																	

開講年度	2014	開講時期	前学期																																																
科目コード	30801600																																																		
科目名	応用通信システム研究																																																		
担当教員（所属）	安田 伸一（経済学部）																																																		
単位数	2																																																		
曜日・校時	木曜 2 時限																																																		
曜日・校時 追記																																																			
講義形式																																																			
学士力番号																																																			
講義概要	<p>この講義は、情報通信技術の発展と共に変化する「ネットビジネス」について考えます。</p> <p>ネットビジネスには、従来の対面販売や通信販売と異なる特徴があります。例えは、ネットには無料で利用できるサービスが多数あります。ネット通販は従来の通信販売よりも広い範囲から顧客を集められると期待されています。</p> <p>このようなネットビジネスは情報通信技術のさまざまな特徴を実社会に活用した事例であり、これからも多様な活用方法が開発されていくと予想されます。この講義では情報通信技術の特徴を理解して、既存のネットビジネスとともに、これから登場する未来のネットビジネスの特徴を直感できる感覚をやしなってゆきます。</p>																																																		
開講意図	情報通信技術の特徴を理解して、その特徴を実社会で活用する感覚を習得する。																																																		
到達目標	情報通信技術の低廉化の影響の理解と、デジタル情報のもつ限界費用ゼロの理解																																																		
聴講指定																																																			
履修上の注意																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義の目標の説明</td> <td>グーグルの収支の調査</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>グーグルのビジネス</td> <td>グーグルの収支の特徴の考察</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>無料サービス+有料サービス</td> <td>無料サービス+有料サービスの具体例の調査</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>、 広告+無料サービス</td> <td>広告+無料サービスの具体例の調査</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アウトソーシング+無料サービス</td> <td>アウトソーシング+無料サービスの具体例の調査</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>無料会員+有料会員</td> <td>無料会員+有料会員の具体例の調査</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>無料で提供し無料で利用する</td> <td>ヤフーの収支の調査</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ヤフーのビジネス</td> <td>ヤフーの収支の特徴の考察</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ネットビジネス以前</td> <td>ネットビジネスとそれ以外の違いの考察</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>従来の通信販売</td> <td>ネット利用の通信販売との違いの考察</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>インターネットを活用した通信販売</td> <td>ロングテール理論の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ロングテール理論</td> <td>Facebook の収支の調査</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Facebook のビジネス</td> <td>ドワンゴの収支の調査</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ドワンゴのビジネス</td> <td>授業で取り上げなかったネットビジネスの収支の調査</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>ネットビジネスの特徴の考察</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	授業以外の学習	1	講義の目標の説明	グーグルの収支の調査	2	グーグルのビジネス	グーグルの収支の特徴の考察	3	無料サービス+有料サービス	無料サービス+有料サービスの具体例の調査	4	、 広告+無料サービス	広告+無料サービスの具体例の調査	5	アウトソーシング+無料サービス	アウトソーシング+無料サービスの具体例の調査	6	無料会員+有料会員	無料会員+有料会員の具体例の調査	7	無料で提供し無料で利用する	ヤフーの収支の調査	8	ヤフーのビジネス	ヤフーの収支の特徴の考察	9	ネットビジネス以前	ネットビジネスとそれ以外の違いの考察	10	従来の通信販売	ネット利用の通信販売との違いの考察	11	インターネットを活用した通信販売	ロングテール理論の予習	12	ロングテール理論	Facebook の収支の調査	13	Facebook のビジネス	ドワンゴの収支の調査	14	ドワンゴのビジネス	授業で取り上げなかったネットビジネスの収支の調査	15	まとめ	ネットビジネスの特徴の考察
回	内容	授業以外の学習																																																	
1	講義の目標の説明	グーグルの収支の調査																																																	
2	グーグルのビジネス	グーグルの収支の特徴の考察																																																	
3	無料サービス+有料サービス	無料サービス+有料サービスの具体例の調査																																																	
4	、 広告+無料サービス	広告+無料サービスの具体例の調査																																																	
5	アウトソーシング+無料サービス	アウトソーシング+無料サービスの具体例の調査																																																	
6	無料会員+有料会員	無料会員+有料会員の具体例の調査																																																	
7	無料で提供し無料で利用する	ヤフーの収支の調査																																																	
8	ヤフーのビジネス	ヤフーの収支の特徴の考察																																																	
9	ネットビジネス以前	ネットビジネスとそれ以外の違いの考察																																																	
10	従来の通信販売	ネット利用の通信販売との違いの考察																																																	
11	インターネットを活用した通信販売	ロングテール理論の予習																																																	
12	ロングテール理論	Facebook の収支の調査																																																	
13	Facebook のビジネス	ドワンゴの収支の調査																																																	
14	ドワンゴのビジネス	授業で取り上げなかったネットビジネスの収支の調査																																																	
15	まとめ	ネットビジネスの特徴の考察																																																	
成績評価の方法と基準	各講義での発言によって評価します。																																																		
開示する試験問題等	講義での発言																																																		
開示方法	経済学部の「成績問い合わせ用オフィスアワー」の時間に開示します。																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業ごとに資料を配布します</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	授業ごとに資料を配布します																																									
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																														
授業ごとに資料を配布します																																																			
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ロングテール</td> <td></td> <td>クリス・アン ダーソン</td> <td>早川書房</td> <td>2009</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	ロングテール		クリス・アン ダーソン	早川書房	2009																																					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																														
ロングテール		クリス・アン ダーソン	早川書房	2009																																															
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL																																														
名称	URL																																																		
オフィスアワー	木曜日3校時																																																		
その他																																																			

開講年度	2014	開講時期	前学期																																																																
科目コード	30872900																																																																		
科目名	組織論研究Ⅱ																																																																		
担当教員（所属）	松尾 陽好（経済学部）																																																																		
単位数	2																																																																		
曜日・校時	火曜2時限																																																																		
曜日・校時 追記																																																																			
講義形式																																																																			
学士力番号																																																																			
講義概要	組織の成立および、維持、存続、成長・発展にかかるプロセスについて、組織論の基本的文献の輪読を通して考察する。																																																																		
開講意図	組織の成立および、維持、存続、成長・発展にかかるプロセスについて考察する。																																																																		
到達目標	組織の成立および、維持、存続、成長・発展にかかるプロセスについて理解する。																																																																		
聴講指定																																																																			
履修上の注意																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th colspan="3">内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td colspan="3">組織の考え方</td></tr> <tr><td>2</td><td colspan="3">組織のおかれている今日的条件</td></tr> <tr><td>3</td><td colspan="3">環境の中での組織</td></tr> <tr><td>4</td><td colspan="3">働く場としての組織</td></tr> <tr><td>5</td><td colspan="3">組織の実践系</td></tr> <tr><td>6</td><td colspan="3">組織における個人</td></tr> <tr><td>7</td><td colspan="3">働くことへの動機づけ</td></tr> <tr><td>8</td><td colspan="3">コミュニケーション</td></tr> <tr><td>9</td><td colspan="3">リーダーシップ</td></tr> <tr><td>10</td><td colspan="3">組織文化</td></tr> <tr><td>11</td><td colspan="3">組織変革</td></tr> <tr><td>12</td><td colspan="3">ケース</td></tr> <tr><td>13</td><td colspan="3">ケース</td></tr> <tr><td>14</td><td colspan="3">ケース</td></tr> <tr><td>15</td><td colspan="3">ケース</td></tr> </tbody> </table>			回	内容			1	組織の考え方			2	組織のおかれている今日的条件			3	環境の中での組織			4	働く場としての組織			5	組織の実践系			6	組織における個人			7	働くことへの動機づけ			8	コミュニケーション			9	リーダーシップ			10	組織文化			11	組織変革			12	ケース			13	ケース			14	ケース			15	ケース		
回	内容																																																																		
1	組織の考え方																																																																		
2	組織のおかれている今日的条件																																																																		
3	環境の中での組織																																																																		
4	働く場としての組織																																																																		
5	組織の実践系																																																																		
6	組織における個人																																																																		
7	働くことへの動機づけ																																																																		
8	コミュニケーション																																																																		
9	リーダーシップ																																																																		
10	組織文化																																																																		
11	組織変革																																																																		
12	ケース																																																																		
13	ケース																																																																		
14	ケース																																																																		
15	ケース																																																																		
成績評価の方法と基準	講義時の報告内容と期末のレポートを総合的に判断して評価する。																																																																		
開示する試験問題等	レポート課題																																																																		
開示方法	成績確定後、学生の請求によりお直接当該学生に開示する。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th><th>版</th><th>著者名</th><th>発行所名 発行者名</th><th>出版年</th><th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>組織マネジメント戦略</td><td></td><td>慶應義塾大学ビジネススクール編</td><td>有斐閣</td><td>2005年</td><td></td></tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	組織マネジメント戦略		慶應義塾大学ビジネススクール編	有斐閣	2005年																																																					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																																														
組織マネジメント戦略		慶應義塾大学ビジネススクール編	有斐閣	2005年																																																															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th><th>版</th><th>著者名</th><th>発行所名 発行者名</th><th>出版年</th><th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																																										
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																																														
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th><th>URL</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			名称	URL																																																														
名称	URL																																																																		
オフィスアワー	金曜日Ⅲ校時																																																																		
その他																																																																			

開講年度	2014	開講時期	前学期												
科目コード	30883600														
科目名	法と経済研究														
担当教員（所属）	三好 祐輔（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	月曜 1 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式															
学士力番号															
講義概要	「経済学と法学は歩み寄ることができるのか」という大きな課題だけでなく、「市場取引になぜ法律が介入する必要があるのか」という個別経済主体の意思決定問題や市場メカニズムの限界について考察をする。														
開講意図	消費者と企業とのトラブルにおいて、消費者が勝訴することが消費者保護に繋がるという考えが司会的で、消費者契約法や金融商品販売法などの民事ルールの整備が進められてきた。 特に、現代社会において、眞の消費者保護がどこにあるかを判断することが、立法や法解釈の精度を高め、法の機能を高める上で意義を持つものとして重要視され、政策的関心を集めている。 立法に当たっての制度設計がどのような効果を経済社会にもたらすのか、この講義を通して、身近な最近の社会問題を題材にあげ、消費者保護政策を概観することにより、眞の消費者保護のあり方について理解していく。														
到達目標	消費者保護の眞の意味について理解することを目標とする。 法と正義はどう関わるのかについて、法の概念や法の役割はなにかという問題関心を明確に意識する。 当事者の権利と義務を支障なく遂行させるため、法の役割とはなにか、法規制の適切な射程距離を見極めてゆく視点を身に付ける。 現代の社会で起こる文藻の原因とその特徴を学ぶための実践的な方法を身につける。 法と経済学の基礎知識を身に付ける。														
聴講指定															
履修上の注意															
授業計画	1. 法的思考の特徴(日照権を事例) 2. 消費者保護に対する法律の位置づけ 3. 消費者の自己決定権とパトーナリズムの対立 4. 契約自由の原則と消費者契約法 5. 大口割引制度と特定商品取引法の意義(NOVA事件を事例) 6. 企業に対する情報開示の義務 7. 喫煙の有害表示を記載するか否か(タバコを事例) 8. 法的思考と法と経済学 9. 司法制度改革の理念と実態 10. 法的サービス市場に対する消費者の意識 11. 民事訴訟にかかる費用と法律扶助(弁護士市場を事例) 12. 貸借にまつわる法制度による解決策 13. 消費者金融業者と上限金利規制の関係 14. グレーゾーン金利とみなし弁済規定(消費者金融を事例) 15. 最終試験のための復習														
成績評価の方法と基準	定期試験で評価(教科書orレジメは持ち込み可)														
開示する試験問題等	最初の講義(4/11)で指示する														
開示方法	最終講義で点数を開示する														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法と紛争解決の実証分析-法と経済学のアプローチ-</td> <td>初版</td> <td>三好祐輔</td> <td>大阪大学出版会</td> <td>2013</td> <td>ISBN978-4-87259-421-8 C3033</td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	法と紛争解決の実証分析-法と経済学のアプローチ-	初版	三好祐輔	大阪大学出版会	2013	ISBN978-4-87259-421-8 C3033		
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
法と紛争解決の実証分析-法と経済学のアプローチ-	初版	三好祐輔	大阪大学出版会	2013	ISBN978-4-87259-421-8 C3033										
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)								
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	講義のあとでお願いします														
その他															

開講年度	2014	開講時期	前学期															
科目コード	30920500																	
科目名	簿記論研究																	
担当教員（所属）	木戸田 力（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	木曜 6 時限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式																		
学士力番号																		
講義概要	企業会計の測定構造の研究は、従来意味論的および構文論的分野で積み重ねられてきた。このうち、意味論的分野の考察は、杉本典之氏の業績に基づきつつ、会計環境が激動する状況における会計測定論の確立を学んでいきたい。当面、シュマーレンバッハやペイトンなどの会計理論を材料としてとりあげながら、講義をすすめていきたい。																	
開講意図	修士論文を完成させる基礎的な学力を養う。																	
到達目標	修士論文を完成させる。																	
聴講指定	1年生以上																	
履修上の注意	大学時代に企業会計を学んだ者のみ履修すること。																	
授業計画	ゼミナール形式をとる。																	
成績評価の方法と基準	平常点（講義の出席および小テスト）により成績を評価したい。																	
開示する試験問題等	開示しない。																	
開示方法	開示しない。																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生と相談の上決める。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	学生と相談の上決める。					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
学生と相談の上決める。																		
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>U R L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						名称	U R L										
名称	U R L																	
オフィスアワー	木6																	
その他																		

開講年度	2014	開講時期	前学期												
科目コード	30981600														
科目名	企業福祉法研究														
担当教員（所属）	丸谷 浩介（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	水曜 2 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式	履修者の研究対象・研究進捗状況、理解の程度等に応じて、講義形式と履修者の報告を組み合わせて行います。														
学士力番号	2.(1)(2)(3)、3.(1)(2)(3)に対応。														
講義概要	メンバーシップ型労働市場の変容に伴い、労働者の職業能力を維持向上のために誰が何をすべきかが変わってきています。また、非正規労働者の増加と失業の質的变化は、様々な政策的対応を余儀なくさせています。この講義では、日本の雇用慣行とは何かということを理解した上で、失業者や非正規労働者が人たるに値する生活を手に入れるにはどのような政策を講じるべきかを考えます。														
開講意図	○日本の労働市場と労働政策を理解すること ○失業と社会保障について理解すること ○再就職支援政策の光と影について理解すること														
到達目標	非正規労働者の労働と社会保障に関する正しい理解を得て、いかなる政策を講じるべきかを理論的に説明できる。														
聴講指定	受講者の出身国に応じてテーマ・対象国等を選定します。法律の知識は必要ありません。														
履修上の注意															
授業計画	たとえば次のようなことを議論します。 ○終身雇用は崩壊しているのか ○転職は一般化しているのか ○若者の就労意欲は減退しているのか ○就職氷河期は企業の責任だったのか ○正規雇用が減って非正規雇用が増えたのか ○日本の雇用保険制度は貧弱なのか ○日本の再就職支援は他国に見劣りするのか ○生活保護受給者が増えたのは就労していない若年者が増えたからか ※テキスト等は受講者との相談で決定します。														
成績評価の方法と基準	平素の受講態度、議論内容、報告内容などを総合的に判断します。														
開示する試験問題等	要望があればすべて開示します。														
開示方法	要望に応じて開示します。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開講時に指定します。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	開講時に指定します。							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
開講時に指定します。															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)								
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	金4														
その他															

開講年度	2014	開講時期	前学期															
科目コード	31002700																	
科目名	環境法研究Ⅱ																	
担当教員（所属）	樺澤 秀木（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	月曜 7時限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式	学生の関心に応じて、テーマとテキストを決め、報告してもらう。																	
学士力番号	1-(2), 1-(4)																	
講義概要	環境法は、現代社会を考察する際に欠かせない知識となっている。 本授業は、環境法の概略を知ることを目的とするが、学生の興味に従ってテーマを絞ることは可能である。																	
開講意図	環境法の概要を理解し、その特徴を認識する。																	
到達目標	環境法の概要を理解する。																	
聴講指定																		
履修上の注意																		
授業計画	学生の希望を聞いた後、詳細な授業計画を立てる。																	
成績評価の方法と基準	普段の授業態度と学期末に行う小テストで評価する。																	
開示する試験問題等	授業の中で説明する。																	
開示方法	授業の中で説明する。																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> <tr> <td>特に指定しない。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	特に指定しない。						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
特に指定しない。																		
参考図書	<table border="1"> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
リンク	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>URL</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>						名称	URL										
名称	URL																	
オフィスアワー	火3限目																	
その他																		

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	31012710																
科目名	民法研究Ⅰ																
担当教員（所属）	栗林 佳代（経済学部）																
単位数	2																
曜日・校時	水曜 6 時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式	少人数ゼミで報告、質疑応答の形式で進める。																
学士力番号	1- (4) 、 2- (1)																
講義概要	本講義では、民法に関する基礎的研究を行う。そのために下記に指定する専門書を講読する。いわゆる「生活民法」という領域について、契約および家族という観点から検討を行い、民法および民法関連法に関する基礎的知識を定着させ、深める。																
開講意図	民法および民法関連法に関する基礎的知識を身につけるだけでなく、それを深め、実践的に用いることができるようになることを意図している。																
到達目標	民法および民法関連法に関する基礎的知識の定着および応用能力を身につけることを目標とする。なお、本講義は、佐賀大学学士力2の(1)、(2)に対応している。																
聴講指定																	
履修上の注意	企業法コア科目群を履修していることが望ましい。																
授業計画	受講者にテキストの内容および内容の検討について報告してもらい、それをもとに受講者全員で議論をするかたちで講義を進める。																
成績評価の方法と基準	報告内容および討論での発言内容・積極性、出席状況等の平常点による総合評価																
開示する試験問題等	報告内容および討論での発言内容・積極性、出席状況等の平常点																
開示方法	開示を希望する者は、別途指定する試験用のオフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室に来て下さい。																
教科書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>版</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 発行者名</td> <td>出版年</td> <td>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</td> </tr> <tr> <td>消費者・家族と法</td> <td></td> <td>大村敦志</td> <td>東京大学出版</td> <td>1999</td> <td></td> </tr> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	消費者・家族と法		大村敦志	東京大学出版	1999	
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
消費者・家族と法		大村敦志	東京大学出版	1999													
参考図書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>版</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 発行者名</td> <td>出版年</td> <td>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
リンク	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>U R L</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>					名称	U R L										
名称	U R L																
オフィスアワー	随時（要事前連絡）																
その他	受講に際しては、六法を持参すること。																

開講年度	2014	開講時期	前学期															
科目コード	31030100																	
科目名	刑法研究																	
担当教員（所属）	内山 真由美（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	金曜 1時限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式	少人数によるゼミナール方式で行う。																	
学士号番号																		
講義概要	刑法に関する判例研究を行う。																	
開講意図	刑法に関する基礎的知識を身につける。																	
到達目標	開講意図に同じ。																	
聴講指定																		
履修上の注意	講義は、受講生が刑法の基礎的知識を有することを前提に進めるため、開講までに、刑法総論・各論を復習しておくこと。																	
授業計画	毎回、受講生は指定した判例について報告し、それに基づいて議論する。取り上げる判例は、受講生の関心に応じて選択する。																	
成績評価の方法と基準	出席状況、報告内容、授業での発言等から総合的に成績評価を行う。																	
開示する試験問題等	成績評価の対象となるすべてのもの。																	
開示方法	経済学部の「成績問い合わせ用オフィスアワー」の時間に開示する。																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業開始時に提示する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	授業開始時に提示する。						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
授業開始時に提示する。																		
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						名称	URL										
名称	URL																	
オフィスアワー	金3（要事前連絡）																	
その他																		

開講年度	2014	開講時期	前学期												
科目コード	31050000														
科目名	情報基礎														
担当教員（所属）	羽石 寛志（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	月曜 6 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式															
学士力番号															
講義概要	情報・メディアリテラシーの教育と研究														
開講意図	PCを利用して修士課程での研究を行う上での情報・メディアリテラシーの習得。 修士論文作成のための技術の習得。														
到達目標	修士課程での研究に用いられるPCの活用技法の習得を目標														
聴講指定															
履修上の注意															
授業計画	受講者の人数レベルにより変化するが、 1. アプリケーションソフト（Word・Excel・Power-Point）の演習 2. プрезентーション技能の習得 3. 情報の取り扱い 4. その他														
成績評価の方法と基準	講義の参加と課題により総合評価														
開示する試験問題等	成績及び出席状況等をを開示する。														
開示方法	閲覧を希望する者（履修登録した者に限る）は、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室まで来ること。														
教科書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>版</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 発行者名</td> <td>出版年</td> <td>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</td> </tr> <tr> <td>プリント等を用意する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	プリント等を用意する							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
プリント等を用意する															
参考図書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>版</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 発行者名</td> <td>出版年</td> <td>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)								
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>URL</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	水曜日3校時及び隨時行う														
その他															

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	30894100																
科目名	流通システム論研究																
担当教員（所属）	岩永 忠康(非常勤講師)																
単位数	2																
曜日・校時	月曜 1 時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式	講義と演習の組み合わせ。																
学士力番号																	
講義概要	特定のテキストを用いてマーケティング・流通・商業に関する基礎知識・理論を学ぶ。																
開講意図	マーケティング・流通・商業に関する基礎知識・理論を理解し習得させる。																
到達目標	マーケティング・流通・商業に関する文献を整理し、文献の意図や問題点を把握される。それによって、修士論文の準備も兼ねる。																
聴講指定	テキストは『現代流通の基礎理論』を推薦する。																
履修上の注意	出席を重視する。																
授業計画	マーケティング・流通・商業に関する特定のテキスト（学生と相談したテキスト）を用いて基礎知識・理論を演習形式で講義する。 1、テキスト選定、講義の進め方等、（『現代流通の基礎理論』を推薦） 2、テキストの内容の概要—現代流通のアウトライン 3、テキストの第1章—商業の基礎理論 4、テキストの第2章—卸売商業 5、テキストの第3章—小売商業 6、テキストの第4章—商業の国際化 7、テキストの第5章—マーケティングの考え方と戦略 8、テキストの第6章—マーケティング管理 9、テキストの第1-5章の予備—これまでの講義についての討論、ビデオ観賞、 10、テキストの第7章—マーケティング・ミックス戦略 12、テキストの第8章—地域ブランド 13、テキストの第9章—日本の流通システム 14、テキストの第10章—SCM 13、テキストの第11章—流通政策 14、テキストの第12章—院生のレポートの報告・討論、ビデオ観賞 15、テキストの総括																
成績評価の方法と基準	平素の成績とレポートで採点する。																
開示する試験問題等	成績評価に用いたすべての資料																
開示方法	開示を希望する者に研究室で開示する。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回の講義の際に次回のテキストとなる論文を配布する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	前回の講義の際に次回のテキストとなる論文を配布する							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
前回の講義の際に次回のテキストとなる論文を配布する																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)								
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL												
名称	URL																
オフィスアワー	火曜日 7 校目																
その他																	

開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	31061000																
科目名	実用外国語																
担当教員（所属）	マッカーサー（経済学部）																
単位数	2																
曜日・校時	水曜 1 時限																
曜日・校時 追記																	
講義形式																	
学士力番号																	
講義概要	The content of this class will vary according to the needs and abilities of the students who enroll. In principle, however, it is intended for postgraduate students who plan to write their research thesis at Saga University in English, or who will need to write up research in English in future. Therefore, the content will focus on academic writing.																
開講意図	See above.																
到達目標	See above.																
聴講指定																	
履修上の注意																	
授業計画	Week 1-15: The content and order in which it is taught will be decided after consultation with the teacher.																
成績評価の方法と基準	Continuous assessment.																
開示する試験問題等	There will be no end-of-term exam in this subject. However, students must do all the assignments to a satisfactory level to get credit.																
開示方法	Weekly assignments will be given and assessed.																
教科書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>版</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 発行者名</td> <td>出版年</td> <td>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</td> </tr> <tr> <td>Materials will be provided by the instructor.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	Materials will be provided by the instructor.					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
Materials will be provided by the instructor.																	
参考図書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>版</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 発行者名</td> <td>出版年</td> <td>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
リンク	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>U R L</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>					名称	U R L										
名称	U R L																
オフィスアワー	Wednesday, Period 2																
その他																	

開講年度	2014	開講時期	前学期												
科目コード	31061000														
科目名	実用外国語														
担当教員（所属）	マッカーサー（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	月曜 6 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式															
学士力番号															
講義概要	The content of this class will vary according to the needs and abilities of the students who enroll. In principle, however, it is intended for postgraduate students who plan to write their research thesis at Saga University in English, or who will need to write up research in English in future. Therefore, the content will focus on academic writing.														
開講意図	See above.														
到達目標	See above.														
聴講指定															
履修上の注意															
授業計画	Week 1-15: The content and order in which it is taught will be decided after consultation with the teacher.														
成績評価の方法と基準	Continuous assessment.														
開示する試験問題等	There will be no end-of-term exam in this subject. However, students must do all the assignments to a satisfactory level to get credit.														
開示方法	Weekly assignments will be given and assessed.														
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Materials will be provided by the instructor.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody></table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	Materials will be provided by the instructor.					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
Materials will be provided by the instructor.															
参考図書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL										
名称	URL														
オフィスアワー	Wednesday, Period 2														
その他															

開講年度	2014	開講時期	後学期																																																
科目コード	30551800																																																		
科目名	上級マクロ経済学研究																																																		
担当教員（所属）	谷 晶紅（経済学部）																																																		
単位数	2																																																		
曜日・校時	火曜 6時限																																																		
曜日・校時 追記																																																			
講義形式	ゼミ形式																																																		
学士力番号	2の(1)、2の(3)、3の(2)																																																		
講義概要	動学的最適化の基礎的な理論、そして理論に基づいた代表的な経済変動モデル、インプリケーションについて学ぶ。また、財政政策・金融政策の運営やあり方に関する議論を行う。																																																		
開講意図	マクロ動学的最適化の基礎や動学的最適化に基づいた経済変動の分析について理解する。																																																		
到達目標	インフレ、財政赤字、金融政策などの経済問題に対する理解が深まるようになる。																																																		
聴講指定																																																			
履修上の注意																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新古典派経済成長モデル（1）：ソロー・スワン 経済成長モデル</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>新古典派経済成長モデル（2）：位相図による分析、数式による分析</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>新古典派経済成長モデル（3）：貯蓄率の変化の影響、政策的インプリケーション</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>新古典派経済成長モデル（4）：環境と経済成長</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>世代重複モデル</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>実物的景気循環理論（1）：リアル・ビジネス・サイクルの基本モデル</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>実物的景気循環理論（2）：特殊ケースのモデル</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>実物的景気循環理論（3）：モデルのインプリケーション、拡張と限界</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>経済変動に関するケインジアンの理論</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ニューケインジアン経済学</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>消費</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>投資</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>インフレと金融政策</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>財政赤字と財政政策</td> <td>テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容	授業以外の学習	1	ガイダンス	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	2	新古典派経済成長モデル（1）：ソロー・スワン 経済成長モデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	3	新古典派経済成長モデル（2）：位相図による分析、数式による分析	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	4	新古典派経済成長モデル（3）：貯蓄率の変化の影響、政策的インプリケーション	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	5	新古典派経済成長モデル（4）：環境と経済成長	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	6	世代重複モデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	7	実物的景気循環理論（1）：リアル・ビジネス・サイクルの基本モデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	8	実物的景気循環理論（2）：特殊ケースのモデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	9	実物的景気循環理論（3）：モデルのインプリケーション、拡張と限界	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	10	経済変動に関するケインジアンの理論	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	11	ニューケインジアン経済学	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	12	消費	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	13	投資	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	14	インフレと金融政策	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと	15	財政赤字と財政政策	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと
回	内 容	授業以外の学習																																																	
1	ガイダンス	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
2	新古典派経済成長モデル（1）：ソロー・スワン 経済成長モデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
3	新古典派経済成長モデル（2）：位相図による分析、数式による分析	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
4	新古典派経済成長モデル（3）：貯蓄率の変化の影響、政策的インプリケーション	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
5	新古典派経済成長モデル（4）：環境と経済成長	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
6	世代重複モデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
7	実物的景気循環理論（1）：リアル・ビジネス・サイクルの基本モデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
8	実物的景気循環理論（2）：特殊ケースのモデル	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
9	実物的景気循環理論（3）：モデルのインプリケーション、拡張と限界	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
10	経済変動に関するケインジアンの理論	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
11	ニューケインジアン経済学	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
12	消費	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
13	投資	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
14	インフレと金融政策	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
15	財政赤字と財政政策	テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと																																																	
成績評価の方法と基準	担当した内容の説明、質疑応答、およびディスカッションへの参加を含めた平素の成績で評価する。																																																		
開示する試験問題等	評価の内容。																																																		
開示方法	成績について、【成績問い合わせオフィスアワー】時に個別に開示し説明する。																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上級マクロ経済学</td> <td></td> <td>デビッド・ローマー</td> <td>日本評論社</td> <td>2010</td> <td>第3版</td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	上級マクロ経済学		デビッド・ローマー	日本評論社	2010	第3版																																				
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																														
上級マクロ経済学		デビッド・ローマー	日本評論社	2010	第3版																																														
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																										
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																														
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL																																														
名称	URL																																																		
オフィスアワー	金曜日 13:00~14:30																																																		
その他																																																			

開講年度	2014	開講時期	後学期																																															
科目コード	30638000																																																	
科目名	経済政策論研究																																																	
担当教員（所属）	蘭田 竜之介（経済学部）																																																	
単位数	2																																																	
曜日・校時	木曜 6 時限																																																	
曜日・校時 追記																																																		
講義形式	ゼミ形式																																																	
学士力番号																																																		
講義概要	経済政策とは、種々の問題に対処すべく適切な制度を設計し、社会を調整しようとする試みである。経済政策論を展開するにあたっては、現実に即した鋭い問題意識と、正確な現状分析、および論理的な議論の積み重ねが必要不可欠である。本科目では、日本経済の諸問題を制度的観点から分析したテキストを題材に討論を行い、経済政策を専門的に議論できる力を養う。																																																	
開講意図	本科目では、自身が考えるべき政策課題を見出し、学術的な議論を展開できるようになるために、制度的観点からの社会分析のフレームワークと分析手法とを習得する。																																																	
到達目標	1. 経済政策論の専門文献を読み、充分に議論の内容を理解できるようになる。 2. 取り上げる政策課題に対して理論的に考察し、学術的な議論を行えるようになる。																																																	
聴講指定																																																		
履修上の注意	意欲的・積極的に討論に参加し、自身の研究に活かしていこうとする姿勢が求められる。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション：経済政策と「制度の経済学」</td> <td>『制度と調整の経済学』 1章の熟読</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>市場的調整と4つの制度的調整</td> <td>同テキスト 2章の熟読</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>制度的調整の理論的系譜</td> <td>同テキスト 3章の熟読</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本の賃金格差拡大の要因</td> <td>同テキスト 4章の熟読</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本製造業における企業内・企業間分業構造の変化</td> <td>同テキスト 6章の熟読</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>バブル崩壊後の経済再生プロセスの国際比較</td> <td>同テキスト 7章の熟読</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>通貨統合の諸条件の比較分析</td> <td>同テキスト 8章の熟読</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>先進諸国の景気循環パターンの変化と多様性</td> <td>同テキスト 9章の熟読</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>制度的補完性とマクロ経済的安定性</td> <td>同テキスト 10章の熟読</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>制度的調整をともなう累積的因果連関</td> <td>同テキスト 11章の熟読</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>1990年代における日本とアメリカの成長体制</td> <td>『制度経済学のフロンティア』 8章の熟読</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>現代日本の労働市場と雇用システム</td> <td>同テキスト 9章の熟読</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>労働市場の流動化と雇用政策</td> <td>次回テーマに関するサーベイ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本型福祉レジームの発展と変容</td> <td>本ゼミで学んだことの総復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ：各参加者による総括</td> <td>本ゼミで学んだことの総復習</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	授業以外の学習	1	イントロダクション：経済政策と「制度の経済学」	『制度と調整の経済学』 1章の熟読	2	市場的調整と4つの制度的調整	同テキスト 2章の熟読	3	制度的調整の理論的系譜	同テキスト 3章の熟読	4	日本の賃金格差拡大の要因	同テキスト 4章の熟読	5	日本製造業における企業内・企業間分業構造の変化	同テキスト 6章の熟読	6	バブル崩壊後の経済再生プロセスの国際比較	同テキスト 7章の熟読	7	通貨統合の諸条件の比較分析	同テキスト 8章の熟読	8	先進諸国の景気循環パターンの変化と多様性	同テキスト 9章の熟読	9	制度的補完性とマクロ経済的安定性	同テキスト 10章の熟読	10	制度的調整をともなう累積的因果連関	同テキスト 11章の熟読	11	1990年代における日本とアメリカの成長体制	『制度経済学のフロンティア』 8章の熟読	12	現代日本の労働市場と雇用システム	同テキスト 9章の熟読	13	労働市場の流動化と雇用政策	次回テーマに関するサーベイ	14	日本型福祉レジームの発展と変容	本ゼミで学んだことの総復習	15	まとめ：各参加者による総括	本ゼミで学んだことの総復習	
回	内 容	授業以外の学習																																																
1	イントロダクション：経済政策と「制度の経済学」	『制度と調整の経済学』 1章の熟読																																																
2	市場的調整と4つの制度的調整	同テキスト 2章の熟読																																																
3	制度的調整の理論的系譜	同テキスト 3章の熟読																																																
4	日本の賃金格差拡大の要因	同テキスト 4章の熟読																																																
5	日本製造業における企業内・企業間分業構造の変化	同テキスト 6章の熟読																																																
6	バブル崩壊後の経済再生プロセスの国際比較	同テキスト 7章の熟読																																																
7	通貨統合の諸条件の比較分析	同テキスト 8章の熟読																																																
8	先進諸国の景気循環パターンの変化と多様性	同テキスト 9章の熟読																																																
9	制度的補完性とマクロ経済的安定性	同テキスト 10章の熟読																																																
10	制度的調整をともなう累積的因果連関	同テキスト 11章の熟読																																																
11	1990年代における日本とアメリカの成長体制	『制度経済学のフロンティア』 8章の熟読																																																
12	現代日本の労働市場と雇用システム	同テキスト 9章の熟読																																																
13	労働市場の流動化と雇用政策	次回テーマに関するサーベイ																																																
14	日本型福祉レジームの発展と変容	本ゼミで学んだことの総復習																																																
15	まとめ：各参加者による総括	本ゼミで学んだことの総復習																																																
成績評価の方法と基準	毎回の討論における発言内容 (100%) . . . (到達目標 1、2)																																																	
開示する試験問題等	特になし。																																																	
開示方法	特になし。																																																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制度と調整の経済学</td> <td>1</td> <td>宇仁宏幸</td> <td>ナカニシヤ出版</td> <td>2009</td> <td>978-4-7795-0361-0</td> </tr> <tr> <td>制度経済学のフロンティア—理論・応用・政策—</td> <td>1</td> <td>磯谷明徳</td> <td>ミネルヴァ書房</td> <td>2004</td> <td>978-4-623-04119-0</td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	制度と調整の経済学	1	宇仁宏幸	ナカニシヤ出版	2009	978-4-7795-0361-0	制度経済学のフロンティア—理論・応用・政策—	1	磯谷明徳	ミネルヴァ書房	2004	978-4-623-04119-0																															
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
制度と調整の経済学	1	宇仁宏幸	ナカニシヤ出版	2009	978-4-7795-0361-0																																													
制度経済学のフロンティア—理論・応用・政策—	1	磯谷明徳	ミネルヴァ書房	2004	978-4-623-04119-0																																													
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																											
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL																																															
名称	URL																																																	
オフィスアワー	火曜日・4校時 (事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましい)																																																	
その他																																																		

開講年度	2014	開講時期	後学期												
科目コード	30660800														
科目名	日本アジア比較経済史研究														
担当教員（所属）	金子 晋右（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	金曜 6 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式	講義形式及びゼミ形式（割合については、受講生の人数や要望による）														
学士力番号	2(2), 3(2)														
講義概要	日本とアジアの経済について、経済史的視点から考察する。														
開講意図	主要先進工業国である日本は、100年以上に渡って近代経済成長を積み重ねてきた。全ての主要先進工業国は、そうした歴史の上に成り立っている。ゆえに、発展途上国を先進工業国へと成長させるためには、経済史的視点からの研究が必要不可欠である。本演習では、こうした視点より、近現代の日本とアジアの経済史的分析を行った上で、現状分析と、それらに基づいた対策を考案する訓練をする。														
到達目標	近現代の日本とアジアの経済社会を研究する能力を身につける。														
聴講指定															
履修上の注意	下記の教科書をよく読むこと。なお、受講生の希望により、下記の参考図書を主として使用する場合もある。														
授業計画	<p>[授業計画]</p> <p>1 ガイダンス及びイントロダクション 2 教科書「はじめに」1~19頁 3 教科書序章第1節 4 教科書序章第2節 5 教科書序章第3節 6 教科書第1章 7 教科書第2章 8 中間レポート発表 9 教科書第3章第1~3節 10 教科書第3章第4~7節 11 教科書第4章第1~3節 12 教科書第4章第4~6節 13 教科書第5章 14 教科書第6章と第7章 15 総括及び期末レポート発表</p> <p>[授業以外の学習] 次回までの課題：教科書の該当箇所を読了しておくこと。</p>														
成績評価の方法と基準	成績評価の割合は、期末レポート60%、中間レポート20%、授業への貢献度（議論・発表・良い質問等）を20%とする。成績評価の基準は、近現代の日本とアジアの経済社会を、経済史的な視点から理解し、分析する能力を身につけていること。														
開示する試験問題等	評価基準とその意図。														
開示方法	授業時に説明する。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦前期アジア間競争と日本の工業化：インド・中国・日本の蚕糸絹業</td> <td></td> <td>金子晋右著</td> <td>論創社</td> <td>2010</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	戦前期アジア間競争と日本の工業化：インド・中国・日本の蚕糸絹業		金子晋右著	論創社	2010			
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
戦前期アジア間競争と日本の工業化：インド・中国・日本の蚕糸絹業		金子晋右著	論創社	2010											
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Intra-Asian trade and industrialization : essays in memory of Yasukichi Yasuba</td> <td></td> <td>edited by A.J.H. Latham and Heita Kawakatsu</td> <td>Routledge</td> <td>2009</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	Intra-Asian trade and industrialization : essays in memory of Yasukichi Yasuba		edited by A.J.H. Latham and Heita Kawakatsu	Routledge	2009			
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
Intra-Asian trade and industrialization : essays in memory of Yasukichi Yasuba		edited by A.J.H. Latham and Heita Kawakatsu	Routledge	2009											
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	火曜16:20-17:00。														
その他															

開講年度	2014	開講時期	後学期												
科目コード	30695000														
科目名	開発経済学研究														
担当教員（所属）	ラタナーヤカ（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	金曜 4 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式															
学士力番号															
講義概要	<p>本講義は、経済発展に対する制度的要因（行政機関、政治、民主主義、教育、言語、文化、倫理、宗教、社会的価値意識など）の役割について、批評的かつ比較的に議論された分析を紹介するものである。特に、戦後の日本とアジアの経験を、理論的かつ実証的に分析しながら講義を進めていく。また、アジア諸国の貧困軽減に対するソーシャル・ビジネスの効果について講義を行う。講義は開発経済学と制度経済学の科目のもとで、以下のことを中心にして行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済発展概念とその過程 2. 発展途上諸国の経済発展に対する制度的要因の問題点 3. 発展途上諸国の経済発展に対する諸政策 4. ソーシャル・ビジネスと貧困軽減 														
開講意図	講義の後、意見交換														
到達目標	経済発展に対する理論的かつ実証的なことについて理解してもらうこと。														
聴講指定	大学院生（修士課程、博士課程）および研究生を対象とする。														
履修上の注意	欠席をしないこと														
授業計画	<p>具体的な講義の目次は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済発展に対する伝統的な考え方：先進国はいかにして先進国になりえたのか 2. 制度と経済発展：「グッド・ガバナンス」の歴史的分析 3. 経済発展に対する制度的要因の役割：アジアの経験を中心にして 4. なぜ、日本は成功したのか①：制度的要因と経済発展に関する日本の教訓 5. なぜ、日本は成功したのか②：日本の近代化の過程分析 <p>毎回の授業の予習を行う。</p>														
成績評価の方法と基準	アサインメント I (30%)、アサインメント II (40%)、プレゼンテーション能力 (30%)などを評価の方法とする。														
開示する試験問題等	試験は実施しない。														
開示方法	試験は実施しない														
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用する教材や講義の進め方は、受講者の関心を考慮して決めることにする。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	使用する教材や講義の進め方は、受講者の関心を考慮して決めることにする。					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
使用する教材や講義の進め方は、受講者の関心を考慮して決めることにする。															
参考図書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL										
名称	URL														
オフィスアワー	講義終了後														
その他															

開講年度	2014	開講時期	後学期												
科目コード	30705200														
科目名	比較労働経済研究Ⅱ														
担当教員（所属）	富田 義典（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	木曜 5 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式	少人数なのでゼミナール形式で行う。														
学士力番号															
講義概要	主に日本の雇用問題を欧米の雇用問題との比較で考えます。失業問題、労使関係、労働時間問題（残業問題）、技能訓練、賃金問題などを、資料・データを手元におきつつ分析・解説します。														
開講意図	今日の日本の雇用問題の特徴をつかんでもらう。														
到達目標	開講意図に同じ。														
聴講指定															
履修上の注意															
授業計画	1. イントロダクション 2. 日本の労使関係 3. 欧米の労使関係 4. 日本の労働組合の機能 5. 欧米の労働組合の機能 6. 労働市場の機能 7. 日本の不安定雇用問題 8. 欧米の不安定雇用問題 9. まとめ														
成績評価の方法と基準	平常の受講状況で判断します。 成績の閲覧とコメントを希望するものは、試験成績に関するオフィスアワーのときに研究室に来ること。														
開示する試験問題等	試験形式での成績判定は行わない。														
開示方法	開示を希望するものは、指定されたオフィスアワーに研究室をたずねること。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開講前にお知らせします。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	開講前にお知らせします。							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
開講前にお知らせします。															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)								
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	火曜日 5 時間目														
その他															

開講年度	2014	開講時期	後学期															
科目コード	30592150																	
科目名	地域経済論研究																	
担当教員（所属）	戸田 順一郎（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	水曜 6 時限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式																		
学士力番号																		
講義概要	本講義は、地域経済に関わる理論的、実証的研究を国内外の文献に基づき概観、考察すること、およびそこから得られた視角をもとに現実の地域構造や地域経済に関する理解を深めることを課題とします。ただし、受講者の関心を考慮したうえで初回の講義時に決定する予定です。																	
開講意図	地域経済論に関わる諸理論についての理解を深めること。																	
到達目標	現実の地域構造や地域経済を分析するための視座の獲得。																	
聴講指定																		
履修上の注意																		
授業計画	担当者による報告と、それに基づく参加者全員による討論という形式をすすめます。																	
成績評価の方法と基準	平素の出席状況、授業中の発表、レポート内容などから総合的に評価します。																	
開示する試験問題等	特になし。																	
開示方法	評価等の開示を希望する者はメールにて申込むこと。																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講義の中で指示する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	講義の中で指示する。						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
講義の中で指示する。																		
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						名称	URL										
名称	URL																	
オフィスアワー	木曜日 3 校時																	
その他																		

開講年度	2014	開講時期	後学期																																															
科目コード	30730100																																																	
科目名	都市経済学研究																																																	
担当教員（所属）	亀山 嘉大（経済学部）																																																	
単位数	2																																																	
曜日・校時	水曜 1 時限																																																	
曜日・校時 追記																																																		
講義形式	演習形式																																																	
学士力番号																																																		
講義概要	この講義では、都市経済学における研究課題の1つである集積の経済を取り上げる。日本の都市経済や産業集積を念頭に、先行研究のサービスを行いながら、①集積の経済がどのような役割をはたしているのかを理解する。これを踏まえて、②実際の統計データに基づき、集積の経済の効果を定量的に分析し、都市発展における集積の経済の効果を検証する。																																																	
開講意図	教科書にあげた書籍は、どちらも日本の産業集積を分析対象に計量分析を行ったものである。①これらの書籍を輪読し、レジュメにまとめながら研究課題を学習する。②分析対象の年次や地域を変えて、実際に計量分析を行い、レポートにまとめるで分析方法を習得できるようになる。これらの書籍のなかには、複数の研究課題があるため、研究課題ごとに輪読と計量分析を行うことになる。計量分析にあたっては、統計データを自らで集めるとともに、計量パッケージソフトを使用することになるので、履修にあたっては、なんらかの計量パッケージソフトを操作できる必要がある（予め各自で学習しておくこと）。																																																	
到達目標	1) 都市経済学の研究課題の1つである集積の経済に関して理解し、現実の都市経済や産業集積の課題を自らで考えることができるようになる。 2) 都市経済学の研究課題に関して、地域の設定を自らで行い、データベースを構築し、計量分析を行うことができるようになる。																																																	
聴講指定																																																		
履修上の注意																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス（都市経済学とは？講義の進め方や相談）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>研究課題の整理①（亀山（2006）の第1章と大塚（2008）の第1章～第2章）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>研究課題の整理②（亀山（2006）の第1章と大塚（2008）の第1章～第2章）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>集積の経済の理論①（亀山（2006）の第4章の輪読）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>集積の経済の実証①（亀山（2006）の第4章の計量分析）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>集積の経済の理論②（亀山（2006）の第3章の輪読）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>集積の経済の実証②（亀山（2006）の第3章の計量分析）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>集積の経済の理論③（亀山（2006）の第3章の輪読）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>集積の経済の実証③（亀山（2006）の第3章の計量分析）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>集積の経済の理論④（大塚（2008）の第3章の輪読）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>集積の経済の実証④（大塚（2008）の第3章の計量分析）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>集積の経済の理論⑤（大塚（2008）の第4章の輪読）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>集積の経済の実証⑤（大塚（2008）の第4章の計量分析）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>集積の経済の理論⑥（大塚（2008）の第5章の輪読）</td> <td>次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>集積の経済の実証⑥（大塚（2008）の第5章の計量分析）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	授業以外の学習	1	ガイダンス（都市経済学とは？講義の進め方や相談）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	2	研究課題の整理①（亀山（2006）の第1章と大塚（2008）の第1章～第2章）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	3	研究課題の整理②（亀山（2006）の第1章と大塚（2008）の第1章～第2章）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	4	集積の経済の理論①（亀山（2006）の第4章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。	5	集積の経済の実証①（亀山（2006）の第4章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	6	集積の経済の理論②（亀山（2006）の第3章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。	7	集積の経済の実証②（亀山（2006）の第3章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	8	集積の経済の理論③（亀山（2006）の第3章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。	9	集積の経済の実証③（亀山（2006）の第3章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	10	集積の経済の理論④（大塚（2008）の第3章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。	11	集積の経済の実証④（大塚（2008）の第3章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	12	集積の経済の理論⑤（大塚（2008）の第4章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。	13	集積の経済の実証⑤（大塚（2008）の第4章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。	14	集積の経済の理論⑥（大塚（2008）の第5章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。	15	集積の経済の実証⑥（大塚（2008）の第5章の計量分析）		
回	内 容	授業以外の学習																																																
1	ガイダンス（都市経済学とは？講義の進め方や相談）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
2	研究課題の整理①（亀山（2006）の第1章と大塚（2008）の第1章～第2章）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
3	研究課題の整理②（亀山（2006）の第1章と大塚（2008）の第1章～第2章）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
4	集積の経済の理論①（亀山（2006）の第4章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。																																																
5	集積の経済の実証①（亀山（2006）の第4章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
6	集積の経済の理論②（亀山（2006）の第3章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。																																																
7	集積の経済の実証②（亀山（2006）の第3章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
8	集積の経済の理論③（亀山（2006）の第3章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。																																																
9	集積の経済の実証③（亀山（2006）の第3章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
10	集積の経済の理論④（大塚（2008）の第3章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。																																																
11	集積の経済の実証④（大塚（2008）の第3章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
12	集積の経済の理論⑤（大塚（2008）の第4章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。																																																
13	集積の経済の実証⑤（大塚（2008）の第4章の計量分析）	次回までの課題：次回の内容を読んでレジュメにまとめる。																																																
14	集積の経済の理論⑥（大塚（2008）の第5章の輪読）	次回までの課題：次回の内容を読んで、データベースを構築し、計量分析を行い結果をレポートにまとめる。																																																
15	集積の経済の実証⑥（大塚（2008）の第5章の計量分析）																																																	
成績評価の方法と基準	定期試験は実施しない。輪読におけるレジュメの作成（理解度）と報告を40点、計量分析に基づくレポートの作成と報告を60点とし、それらの理解度や達成度を評価する。																																																	
開示する試験問題等	定期試験を実施しないので該当しない。																																																	
開示方法	定期試験を実施しないので該当しない。																																																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集積の経済と都市の成長・衰退</td> <td></td> <td>亀山嘉大著</td> <td>大学教育出版</td> <td>2006</td> <td></td> </tr> <tr> <td>産業集積の経済分析－産業集積効果に関する実証研究－</td> <td></td> <td>大塚章弘著</td> <td>大学教育出版</td> <td>2008</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	集積の経済と都市の成長・衰退		亀山嘉大著	大学教育出版	2006		産業集積の経済分析－産業集積効果に関する実証研究－		大塚章弘著	大学教育出版	2008																																
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
集積の経済と都市の成長・衰退		亀山嘉大著	大学教育出版	2006																																														
産業集積の経済分析－産業集積効果に関する実証研究－		大塚章弘著	大学教育出版	2008																																														
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都市と地域の経済学</td> <td>新版</td> <td>黒田達朗, 田淵隆俊, 中村良平著</td> <td>有斐閣</td> <td>2008</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	都市と地域の経済学	新版	黒田達朗, 田淵隆俊, 中村良平著	有斐閣	2008																																						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
都市と地域の経済学	新版	黒田達朗, 田淵隆俊, 中村良平著	有斐閣	2008																																														
リンク	名称	UR L																																																
オフィスアワー	水5																																																	
その他																																																		

開講年度	2014	開講時期	後学期															
科目コード	30752200																	
科目名	行政基礎法研究Ⅱ																	
担当教員（所属）	井上 亜紀（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	月曜 6時限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式	演習形式																	
学士力番号																		
講義概要	私達の生活は、さまざまな形で国や自治体と関わっています。そこで、この授業では国や自治体の活動形式とそれに関わる住民の権利について基本的な勉強したいと思っています。																	
開講意図	行政がどのような法（ルール）に基づいて行われているのか、なぜそのようなルールが必要なのかということを学びます。																	
到達目標	行政法の基本的な知識の習得と具体的な事例における問題点を発見する能力を身につけること。																	
聴講指定																		
履修上の注意																		
授業計画	行政のさまざまな活動形式について自ら調べて報告してもらい、それについて討論します。																	
成績評価の方法と基準	出席状況（回数と態度）および報告によって評価します。																	
開示する試験問題等	成績評価に用いた資料など																	
開示方法	希望に応じて開示します。																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> <tr> <td>開講時に指示します。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	開講時に指示します。						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
開講時に指示します。																		
参考図書	<table border="1"> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
リンク	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>U R L</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>						名称	U R L										
名称	U R L																	
オフィスアワー	金4																	
その他																		

開講年度	2014	開講時期	後学期																																															
科目コード	30823100																																																	
科目名	応用統計研究																																																	
担当教員（所属）	中村 博和（経済学部）																																																	
単位数	2																																																	
曜日・校時	木曜 6 時限																																																	
曜日・校時 追記																																																		
講義形式																																																		
学士力番号																																																		
講義概要	入門的な統計手法の理解を前提として、多変量解析法を学ぶ。多変量解析法は社会科学においても頻繁に使用され統計的手法である。この授業では、単なる事例ではなく理論的側面も重視し、その理解のうえで適用事例を見ていく。理論的側面に關しては講義形式でおこない、演習問題あるいは適用事例報告については履修者が報告することによって進める。																																																	
開講意図	多変量解析法に関し、基礎的な理論を理解し、適用事例を理解できるようになる。また自らが取り組む課題に關して適切な手法を選択し応用できるようになる。																																																	
到達目標	1. 多変量解析法の理論について理解する。 2. 適用事例を適切に解釈できるようになる。 3. 実際の問題に対し適切な手法を選択し実行できるようになる。																																																	
聴講指定																																																		
履修上の注意																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>多変量解析法の紹介</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>統計手法の基礎</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>3</td><td>行列</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>4</td><td>単回帰分析</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>5</td><td>重回帰分析</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>6</td><td>数量化1類</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>7</td><td>判別分析</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>8</td><td>数量化2類</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>9</td><td>主成分分析</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>10</td><td>数量化3類</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>11</td><td>クラスター分析</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>12</td><td>その他の手法（パス解析）</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>13</td><td>その他の手法（因子分析）</td><td>復習と練習問題</td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ（適用事例研究）</td><td>復習と課題報告の準備</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ（課題報告）</td><td>全般的な復習</td></tr> </tbody> </table>	回	内 容	授業以外の学習	1	多変量解析法の紹介	復習	2	統計手法の基礎	復習と練習問題	3	行列	復習と練習問題	4	単回帰分析	復習と練習問題	5	重回帰分析	復習と練習問題	6	数量化1類	復習と練習問題	7	判別分析	復習と練習問題	8	数量化2類	復習と練習問題	9	主成分分析	復習と練習問題	10	数量化3類	復習と練習問題	11	クラスター分析	復習と練習問題	12	その他の手法（パス解析）	復習と練習問題	13	その他の手法（因子分析）	復習と練習問題	14	まとめ（適用事例研究）	復習と課題報告の準備	15	まとめ（課題報告）	全般的な復習	
回	内 容	授業以外の学習																																																
1	多変量解析法の紹介	復習																																																
2	統計手法の基礎	復習と練習問題																																																
3	行列	復習と練習問題																																																
4	単回帰分析	復習と練習問題																																																
5	重回帰分析	復習と練習問題																																																
6	数量化1類	復習と練習問題																																																
7	判別分析	復習と練習問題																																																
8	数量化2類	復習と練習問題																																																
9	主成分分析	復習と練習問題																																																
10	数量化3類	復習と練習問題																																																
11	クラスター分析	復習と練習問題																																																
12	その他の手法（パス解析）	復習と練習問題																																																
13	その他の手法（因子分析）	復習と練習問題																																																
14	まとめ（適用事例研究）	復習と課題報告の準備																																																
15	まとめ（課題報告）	全般的な復習																																																
成績評価の方法と基準	課題への取り組みと課題報告																																																	
開示する試験問題等	成績判定に用いた資料および観点																																																	
開示方法	教員に尋ねることができる																																																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>多変量解析法入門</td><td></td><td>永田靖・棟近雅彦</td><td>サイエンス社</td><td>2001</td><td>4781909809</td></tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	多変量解析法入門		永田靖・棟近雅彦	サイエンス社	2001	4781909809																																					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
多変量解析法入門		永田靖・棟近雅彦	サイエンス社	2001	4781909809																																													
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																											
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	名称	URL																																															
名称	URL																																																	
オフィスアワー	火曜5校時																																																	
その他																																																		

開講年度	2014	開講時期	後学期												
科目コード	30831700														
科目名	現代労使関係研究Ⅱ														
担当教員（所属）	平地一郎（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	月曜6時限														
曜日・校時 追記															
講義形式															
学士力番号															
講義概要	現代の労使関係に関する文献を読み進めていきます。														
開講意図	今日の労働問題は、現代国家との関係なしには理解できません。その意味を考えます。														
到達目標	上記の問題の意味を理解する。														
聴講指定															
履修上の注意															
授業計画	I 現代の労働問題の所在 II 資本主義国家と労働問題 III 新自由主義の労働改革論 IV 新自由主義批判とその検討 テキストは、相談の上決定します。														
成績評価の方法と基準	日頃の報告と討論を総合的に判定して行います。														
開示する試験問題等	該当なし。														
開示方法	該当なし。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキストは、相談の上、決定します。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	テキストは、相談の上、決定します。							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
テキストは、相談の上、決定します。															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)								
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	水3														
その他	テキストについては未定ですが、労働組合活動に関するものを読み進めていきます。														

開講年度	2014	開講時期	後学期												
科目コード	30862500														
科目名	経営管理史研究														
担当教員（所属）	山本 長次（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	火曜 1 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式															
学士力番号															
講義概要	今日的及び歴史的な経営のケースや理論の分析を深め、さらに調べてきたことの報告などをおこなっていきます。														
開講意図	各受講生の関心に応じて、経営の今日及び歴史に対する理解を深めます。														
到達目標	本授業が、大学院のレベルのものとして、各受講生の経営学及び経営史に対する教養の取得や、専門的理解に資することをもって、一定の到達点とします。														
聴講指定															
履修上の注意															
授業計画	広く経営やその歴史について、受講者の関心に即して資料、論文、テキストなどを適宜を設定しながら読解を進め、理解を深めていきます。 前回は複数の受講者各人の関心に即して、国内外の著名な企業の経営のケーススタディを取り上げたり、各自が調べてきたことを報告したり、担当教員が資料やビデオ教材等も用いながらレクチャーをおこなったりしました。さらに、企業の方のお話をうかがったり、企業に訪れる機会を提供したりもしました。 要望がありましたら、企業への訪問やフィールドワーク等の実施も検討したく思います。														
成績評価の方法と基準	出席状況、参加意識、報告やレポートの内容などから判断します。 また、成績評価への照会については、履修登録した希望者本人のみに対して受け付けます。その際は、できるだけ評価を確認した早いタイミングで、研究室を訪ねてください。不在の際は、研究室前に掲示してあるメールアドレスの方に連絡してもらい、対応日時についての調整をします。														
開示する試験問題等	特に試験は実施しておりません。														
開示方法	評価については、各受講生からの照会に対して対応します。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各受講生と相談の上、必要に応じてテキストや参考文献を適宜指示します。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	各受講生と相談の上、必要に応じてテキストや参考文献を適宜指示します。							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
各受講生と相談の上、必要に応じてテキストや参考文献を適宜指示します。															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武藤山治</td> <td></td> <td>山本長次</td> <td>日本経済評論社</td> <td>2013年刊行</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	武藤山治		山本長次	日本経済評論社	2013年刊行			
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
武藤山治		山本長次	日本経済評論社	2013年刊行											
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	前期火4、後期水2とするとともに、適宜対応します。														
その他															

開講年度	2014	開講時期	後学期															
科目コード	30910000																	
科目名	財務会計論研究																	
担当教員（所属）	山形 武裕（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	火曜6時限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式																		
学士力番号	本講義は、佐賀大学学士力2の(2)及び3の(2)に対応している。																	
講義概要	日本では、連結会計、時価会計、キャッシュ・フロー計算書、税効果会計、退職給付会計、減損会計などの会計基準が、2000年以降新たに導入あるいは改正されている。本講義ではこのような会計ビッグバンと呼ばれる会計制度改革を学び、なぜそのような会計基準が導入されたのか、そしてどのような影響を与えたのかについて考えていきます。																	
開講意図	現行の会計基準を過去の会計基準と比較、または国際会計基準と比較して議論します。																	
到達目標	具体的には、会計基準の修正項目または差異を考察することで、現行会計基準の理解を深めると共に、問題点を議論する能力の習得が目標です。																	
聴講指定																		
履修上の注意	なお、各自に課題を割り振るので講義時間前に準備を整え、各講義時間後には指摘された事項ならびに他の報告を参考に各自の課題を検討しなおすこと。																	
授業計画	授業計画は講義初日に提示します。																	
成績評価の方法と基準	平常点と期末試験または報告状況から評価します。 なお、期末試験による場合は、研究室にて希望者に解答を説明します。																	
開示する試験問題等	成績評価の判断資料（課題等）を個別に開示します。																	
開示方法	希望者には研究室にて個別に対応します。																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキストは初回講義で指定します</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	テキストは初回講義で指定します						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
テキストは初回講義で指定します																		
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						名称	URL										
名称	URL																	
オフィスアワー	月曜日5校時																	
その他																		

開講年度	2014	開講時期	後学期																																															
科目コード	30931200																																																	
科目名	管理会計論研究Ⅱ																																																	
担当教員（所属）	小川 哲彦（経済学部）																																																	
単位数	2																																																	
曜日・校時	金曜 6 時限																																																	
曜日・校時 追記																																																		
講義形式	毎週、受講者にテキスト・教材の報告担当箇所を事前に割りあて、報告者がレジュメを作成し、報告し、討論します。																																																	
学士力番号																																																		
講義概要	企業は、環境負荷物質の排出を防止・削減する活動、すなわち環境保全活動に積極的に取り組んでいます。こうした環境保全活動を企業の経営者の意思決定に反映させるために、企業内部で環境関連の財務情報および物量情報を把握し、測定し、分析し、伝達する会計分野が環境管理会計です。そこで本講義では、環境管理会計における原価管理および投資意思決定等に関する各種の手法について研究します。																																																	
開講意図	環境管理会計における各種手法を理解することを目的とします。																																																	
到達目標	環境管理会計における各種手法の理解																																																	
聴講指定																																																		
履修上の注意																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>管理会計論研究Ⅱ概要</td><td>配布プリントを読む</td></tr> <tr><td>2</td><td>環境経営と環境会計</td><td>テキスト3~17頁を読む</td></tr> <tr><td>3</td><td>環境管理会計の展開</td><td>テキスト18~35頁を読む</td></tr> <tr><td>4</td><td>マテリアルフローコスト会計</td><td>テキスト36~70頁を読む</td></tr> <tr><td>5</td><td>ライフサイクルコストティング</td><td>テキスト71~82頁を読む</td></tr> <tr><td>6</td><td>環境配慮型設備投資</td><td>テキスト83~104頁を読む</td></tr> <tr><td>7</td><td>環境配慮型原価企画</td><td>テキスト105~115頁を読む</td></tr> <tr><td>8</td><td>環境予算マトリックス</td><td>テキスト116~137頁を読む</td></tr> <tr><td>9</td><td>環境配慮型業績評価</td><td>テキスト138~152頁を読む</td></tr> <tr><td>10</td><td>企業会計と環境会計から見た環境管理会</td><td>テキスト153~168頁を読む</td></tr> <tr><td>11</td><td>マテリアルフローコスト会計の企業事例</td><td>テキスト169~223頁を読む</td></tr> <tr><td>12</td><td>環境配慮型原価企画の企業事例</td><td>テキスト224~236頁を読む</td></tr> <tr><td>13</td><td>環境予算マトリックスの企業事例</td><td>テキスト237~255頁を読む</td></tr> <tr><td>14</td><td>環境配慮型業績評価の企業事例</td><td>テキスト256~275頁を読む</td></tr> <tr><td>15</td><td>管理会計論研究Ⅱ総括</td><td>配布プリントを読む</td></tr> </tbody> </table>	回	内 容	授業以外の学習	1	管理会計論研究Ⅱ概要	配布プリントを読む	2	環境経営と環境会計	テキスト3~17頁を読む	3	環境管理会計の展開	テキスト18~35頁を読む	4	マテリアルフローコスト会計	テキスト36~70頁を読む	5	ライフサイクルコストティング	テキスト71~82頁を読む	6	環境配慮型設備投資	テキスト83~104頁を読む	7	環境配慮型原価企画	テキスト105~115頁を読む	8	環境予算マトリックス	テキスト116~137頁を読む	9	環境配慮型業績評価	テキスト138~152頁を読む	10	企業会計と環境会計から見た環境管理会	テキスト153~168頁を読む	11	マテリアルフローコスト会計の企業事例	テキスト169~223頁を読む	12	環境配慮型原価企画の企業事例	テキスト224~236頁を読む	13	環境予算マトリックスの企業事例	テキスト237~255頁を読む	14	環境配慮型業績評価の企業事例	テキスト256~275頁を読む	15	管理会計論研究Ⅱ総括	配布プリントを読む	
回	内 容	授業以外の学習																																																
1	管理会計論研究Ⅱ概要	配布プリントを読む																																																
2	環境経営と環境会計	テキスト3~17頁を読む																																																
3	環境管理会計の展開	テキスト18~35頁を読む																																																
4	マテリアルフローコスト会計	テキスト36~70頁を読む																																																
5	ライフサイクルコストティング	テキスト71~82頁を読む																																																
6	環境配慮型設備投資	テキスト83~104頁を読む																																																
7	環境配慮型原価企画	テキスト105~115頁を読む																																																
8	環境予算マトリックス	テキスト116~137頁を読む																																																
9	環境配慮型業績評価	テキスト138~152頁を読む																																																
10	企業会計と環境会計から見た環境管理会	テキスト153~168頁を読む																																																
11	マテリアルフローコスト会計の企業事例	テキスト169~223頁を読む																																																
12	環境配慮型原価企画の企業事例	テキスト224~236頁を読む																																																
13	環境予算マトリックスの企業事例	テキスト237~255頁を読む																																																
14	環境配慮型業績評価の企業事例	テキスト256~275頁を読む																																																
15	管理会計論研究Ⅱ総括	配布プリントを読む																																																
成績評価の方法と基準	平常点、報告内容および議論への参加状況から総合的に判断します。																																																	
開示する試験問題等	過去の報告資料																																																	
開示方法	開示を希望する学生は、研究室へ来てください。																																																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境管理会計入門 理論と実践</td> <td></td> <td>国部 克彦 編著者、経済産業省産業技術環境局 監修</td> <td>産業環境管理協会</td> <td>2004</td> <td>4914953854</td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	環境管理会計入門 理論と実践		国部 克彦 編著者、経済産業省産業技術環境局 監修	産業環境管理協会	2004	4914953854																																					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
環境管理会計入門 理論と実践		国部 克彦 編著者、経済産業省産業技術環境局 監修	産業環境管理協会	2004	4914953854																																													
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																											
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>U R L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	U R L																																															
名称	U R L																																																	
オフィスアワー	金曜 3 限																																																	
その他																																																		

開講年度	2014	開講時期	後学期															
科目コード	30943000																	
科目名	国際会計論研究																	
担当教員（所属）	山下 壽文（経済学部）																	
単位数	2																	
曜日・校時	火曜3限																	
曜日・校時 追記																		
講義形式																		
学士力番号																		
講義概要	国際会計基準の日本や米国などの各国における導入状況、それに対する各国の反応を把握し、国際会計基準と日本の会計基準を比較検討し、その相違点を明らかにする。																	
開講意図	国際会計基準導入の課題を考える。																	
到達目標	国際会計基準導入のメリットとデメリットを把握する。																	
聴講指定	特になし！																	
履修上の注意	毎回出席をとります。遅刻をしないように！次回の講義内容を指示しますので予習をしてくること！																	
授業計画	開講時に事業計画表を配布します。																	
成績評価の方法と基準	小テスト3回×10点、講義態度15点、レポート55点、合計100点																	
開示する試験問題等	オフィス・アワーにて解答を開示する。																	
開示方法	成績開示オフィス・アワーは掲示にて連絡																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際会計論</td> <td></td> <td>山下壽文</td> <td>プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	国際会計論		山下壽文	プリント			
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
国際会計論		山下壽文	プリント															
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)													
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>U R L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						名称	U R L										
名称	U R L																	
オフィスアワー	水曜日3校時																	
その他	講義時に資料配布。																	

開講年度	2014	開講時期	後学期												
科目コード	30952000														
科目名	企業法研究Ⅱ														
担当教員（所属）	小西 みも恵（経済学部）														
単位数	2														
曜日・校時	木曜 2 時限														
曜日・校時 追記															
講義形式	演習形態														
学士力番号	1 (4) 2 (1) 3 (2)														
講義概要	この講義では、会社法に関する最近の判例を素材として、株式会社法の論点を検討します。														
開講意図	この講義は、判例の検討を通して、会社法制のあり方を研究することを目的としています。														
到達目標	この講義は、会社法のより深い知識を習得したうえで、法律上の論点に対する自己の見解を持つことを目標としています。														
聽講指定															
履修上の注意	商法および民法の基礎的な知識をすでに習得していることを前提とします。														
授業計画	毎回判例を1つ取り上げ、担当者を決めます。担当者は、事例の概要、学説・裁判例の状況、当該判例の検討をまとめたレジュメを作成してください。授業では、担当者による発表の内容に基づき、全員で議論します。														
成績評価の方法と基準	出席状況、発表の内容および授業時の発言等を総合的に判断して、評価します。														
開示する試験問題等	成績評価の対象となるものはすべて														
開示方法	成績の根拠資料については成績発表後に個別に開示しますので、開示を希望する人は事前にメール(konishim@cc.saga-u.ac.jp)で申し込んでください。														
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度重要判例解説</td> <td></td> <td></td> <td>有斐閣</td> <td>2014年</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	平成25年度重要判例解説			有斐閣	2014年			
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
平成25年度重要判例解説			有斐閣	2014年											
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2014年度版六法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	2014年度版六法							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)										
2014年度版六法															
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	URL												
名称	URL														
オフィスアワー	木曜日 3 校時														
その他															

開講年度	2014	開講時期	後学期																				
科目コード	30972000																						
科目名	国際労働関係法研究																						
担当教員（所属）	早川 智津子（経済学部）																						
単位数	2																						
曜日・校時	水曜 2時限																						
曜日・校時 遣記																							
講義形式	各回の課題に対する教員による講義、受講生による報告及び討議により進める。																						
学士力番号																							
講義概要	グローバル化社会における労働問題と労働法の役割を検討する。																						
開講意図	グローバル化社会における労働をめぐる諸問題について、労働法の観点から課題解決のための法的思考能力を養うことを目的とする。																						
到達目標	1)各回のテーマで設定した課題について基礎的な内容を理解して考察することができる。 2)法文献に自らあたり調べることができる。																						
聴講指定																							
履修上の注意																							
授業計画	各回のテーマは、初回の授業で提示する。受講生の関心等に応じて、相談のうえ変更することがある。																						
成績評価の方法と基準	報告（口頭及びレポート）、議論への参加度等を総合評価して決定する。																						
開示する試験問題等	割り当てられた課題についての報告（口頭及びレポート提出）を必須とする。																						
開示方法	成績発表後の指定時間に希望者に対して実施する。																						
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2014年版労働関係法規集</td> <td>2014</td> <td>労働政策研究・研修機構</td> <td>労働政策研究・研修機構</td> <td></td> <td>上記以外の六法でもよい。</td> </tr> <tr> <td>平成26年版注釈・判例出入国管理実務六法</td> <td>2013</td> <td></td> <td>日本加除出版</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	2014年版労働関係法規集	2014	労働政策研究・研修機構	労働政策研究・研修機構		上記以外の六法でもよい。	平成26年版注釈・判例出入国管理実務六法	2013		日本加除出版		
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																		
2014年版労働関係法規集	2014	労働政策研究・研修機構	労働政策研究・研修機構		上記以外の六法でもよい。																		
平成26年版注釈・判例出入国管理実務六法	2013		日本加除出版																				
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外国人労働の法政策</td> <td></td> <td>早川智津子</td> <td>信山社</td> <td>2008</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	外国人労働の法政策		早川智津子	信山社	2008							
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																		
外国人労働の法政策		早川智津子	信山社	2008																			
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					名称	URL																
名称	URL																						
オフィスアワー	木3校時（事前にメールでアポイントを取ることが望ましい）																						
その他																							

開講年度	2014	開講時期	後学期																																																																																																
科目コード	30992400																																																																																																		
科目名	経済法研究Ⅱ																																																																																																		
担当教員（所属）	岩本 諭（経済学部）																																																																																																		
単位数	2																																																																																																		
曜日・校時	月曜 2 時限																																																																																																		
曜日・校時 追記																																																																																																			
講義形式																																																																																																			
学士力番号																																																																																																			
講義概要	「独占禁止法と消費者」についての講義を行う。																																																																																																		
開講意図	独占禁止法は「市場」と「競争」の基本法（ルール）であり、また同法1条の目的規定のとおり「一般消費者の利益を確保」することを法の究極目的とする。本講義では、「消費者」に視点を置くことにより、独占禁止法の基本を把握するとともに、日本法における「独占禁止法」の位置づけを考察する。																																																																																																		
到達目標	受講者一人ひとりが「消費者」としての立場から、「市場」と「競争」のルールの基本を修得することを一つの目標とする。																																																																																																		
聴講指定																																																																																																			
履修上の注意																																																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th colspan="5">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td colspan="5">オリエンテーリング</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td colspan="5">消費者とはなにか</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td colspan="5">消費者と価格（1）－一定価とは何か</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td colspan="5">消費者と価格（2）－「価格の横並び」とは何か</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td colspan="5">消費者と価格（3）－安売りは、消費者にとって例外なく歓迎されることか</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td colspan="5">消費者と選択（1）－新車はどの地域でも購入できるか</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td colspan="5">消費者と選択（2）－「コンビニはなぜ高い」「弁当がゴミになる瞬間」</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td colspan="5">消費者と選択（3）－「ドラクエと不人気ソフト」「ワードとエクセル」</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td colspan="5">消費者と表示（1）－表示とは何か</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td colspan="5">消費者と表示（2）－表示規制の仕組み～食品表示を素材として</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td colspan="5">消費者と表示（3）－広告も表示である</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td colspan="5">消費者と景品・懸賞付販売（1）－景品・懸賞天国ニッポンとグローバルスタンダード</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td colspan="5">消費者と景品・懸賞付販売（2）－‘進化した景品’～マイレージ・ボーナスポイント</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td colspan="5">日本法における消費者（1）－独占禁止法と消費者法</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td colspan="5">日本法における消費者（2）－国民生活白書〔平成20年度〕から透けて見える光景</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容					1	オリエンテーリング					2	消費者とはなにか					3	消費者と価格（1）－一定価とは何か					4	消費者と価格（2）－「価格の横並び」とは何か					5	消費者と価格（3）－安売りは、消費者にとって例外なく歓迎されることか					6	消費者と選択（1）－新車はどの地域でも購入できるか					7	消費者と選択（2）－「コンビニはなぜ高い」「弁当がゴミになる瞬間」					8	消費者と選択（3）－「ドラクエと不人気ソフト」「ワードとエクセル」					9	消費者と表示（1）－表示とは何か					10	消費者と表示（2）－表示規制の仕組み～食品表示を素材として					11	消費者と表示（3）－広告も表示である					12	消費者と景品・懸賞付販売（1）－景品・懸賞天国ニッポンとグローバルスタンダード					13	消費者と景品・懸賞付販売（2）－‘進化した景品’～マイレージ・ボーナスポイント					14	日本法における消費者（1）－独占禁止法と消費者法					15	日本法における消費者（2）－国民生活白書〔平成20年度〕から透けて見える光景				
回	内 容																																																																																																		
1	オリエンテーリング																																																																																																		
2	消費者とはなにか																																																																																																		
3	消費者と価格（1）－一定価とは何か																																																																																																		
4	消費者と価格（2）－「価格の横並び」とは何か																																																																																																		
5	消費者と価格（3）－安売りは、消費者にとって例外なく歓迎されることか																																																																																																		
6	消費者と選択（1）－新車はどの地域でも購入できるか																																																																																																		
7	消費者と選択（2）－「コンビニはなぜ高い」「弁当がゴミになる瞬間」																																																																																																		
8	消費者と選択（3）－「ドラクエと不人気ソフト」「ワードとエクセル」																																																																																																		
9	消費者と表示（1）－表示とは何か																																																																																																		
10	消費者と表示（2）－表示規制の仕組み～食品表示を素材として																																																																																																		
11	消費者と表示（3）－広告も表示である																																																																																																		
12	消費者と景品・懸賞付販売（1）－景品・懸賞天国ニッポンとグローバルスタンダード																																																																																																		
13	消費者と景品・懸賞付販売（2）－‘進化した景品’～マイレージ・ボーナスポイント																																																																																																		
14	日本法における消費者（1）－独占禁止法と消費者法																																																																																																		
15	日本法における消費者（2）－国民生活白書〔平成20年度〕から透けて見える光景																																																																																																		
成績評価の方法と基準	講義への参加状況と、質疑応答の態様																																																																																																		
開示する試験問題等	定期試験は行わない。																																																																																																		
開示方法	空欄																																																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>開講時に指示する。</td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	開講時に指示する。					開講時に指示する。																																																																																				
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																																																																														
開講時に指示する。					開講時に指示する。																																																																																														
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																																																																										
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)																																																																																														
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			名称	URL																																																																																														
名称	URL																																																																																																		
オフィスアワー	金5																																																																																																		
その他																																																																																																			

開講年度	2014	開講時期	前学期											
科目コード	30544100, 30544200, 30544300, 30544400													
科目名	フィールドワーク													
担当教員（所属）	全教員													
単位数	2													
曜日・校時														
曜日・校時 追記	集中講義													
講義形式														
講義概要	教員の指導の下で、国内外の金融機関、行政機関、国際機関、民間企業、農村農業団体、工場、法務・経理関連オフィス、商店街、商工経済団体などを対象に調査研究を行い、レポートを作成して提出する。													
開講意図														
到達目標														
聴講指定														
履修上の注意														
授業計画	開講時に通知する。													
成績評価の方法と基準	平素の成績、およびレポート提出による。													
教科書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 ・発行者名</td> <td>ISBN・ISSN</td> <td>出版年</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				資料名	著者名	発行所名 ・発行者名	ISBN・ISSN	出版年					
資料名	著者名	発行所名 ・発行者名	ISBN・ISSN	出版年										
参考図書	<table border="1"> <tr> <td>資料名</td> <td>著者名</td> <td>発行所名 ・発行者名</td> <td>ISBN・ISSN</td> <td>出版年</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				資料名	著者名	発行所名 ・発行者名	ISBN・ISSN	出版年					
資料名	著者名	発行所名 ・発行者名	ISBN・ISSN	出版年										
リンク	<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>U R L</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>				名称	U R L								
名称	U R L													
オフィスアワー														
その他														

開講年度	2014	開講時期	前学期													
科目コード	30545000	開講時期														
科目名	総合セミナー															
担当教員（所属）																
単位数	2	開講時期														
曜日・校時																
曜日・校時 追記	前期（7月初めから8月初めの各週1回）に行います															
講義形式																
講義概要	修士論文の作成についていろんなノウ・ハウを講義する。また、修士論文の中間発表を行い、学生と教員相互によりディスカッションすることで、修士論文の質を高めることを狙いとする。															
開講意図	修士論文を執筆するばあいの、① 基本的な考え方・姿勢。② 学術的ルールと論文構成、③ データ分析の手法、④ プレゼンテーションの方法について学び、⑤以上にもとづいて中間報告を行い、それをもとにディスカッションする。															
到達目標	修士論文の構想、構成、引用の仕方、資料やデータの収集、執筆要領、発表の方法など規則を身につけること。修士論文の中間発表を行って、完成までの道程を考える。															
聴講指定	2年生が対象ですが、1年生も参加可能（将来の修士論文作成に役立てるため）。															
履修上の注意																
授業計画	1～2回 修士論文に求められている基本的、基礎的なことがら 3～4回 修士論文の基本的な学術ルールと論文構成の規則 5～6回 データ分析の手法 7～8回 プレゼンテーションの技法 9～10回 中間発表とディスカッション 11～12回 中間発表とディスカッション 13～15回 中間発表とディスカッション これまでの「まとめ」															
成績評価の方法と基準	出席、報告・発表などを総合的に成績評価する。 成績評価については、「成績評価問合せのオフィスアワー」に質問してください。															
開示する試験問題等	試験は行わないが、必ず中間発表をすること。															
開示方法	試験は実施しない。															
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プリントを配布します</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	プリントを配布します					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)											
プリントを配布します																
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)						
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)											
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名称	URL										
名称	URL															
オフィスアワー	金曜日IV・V時間目（専攻長 納富研究室）															
その他																

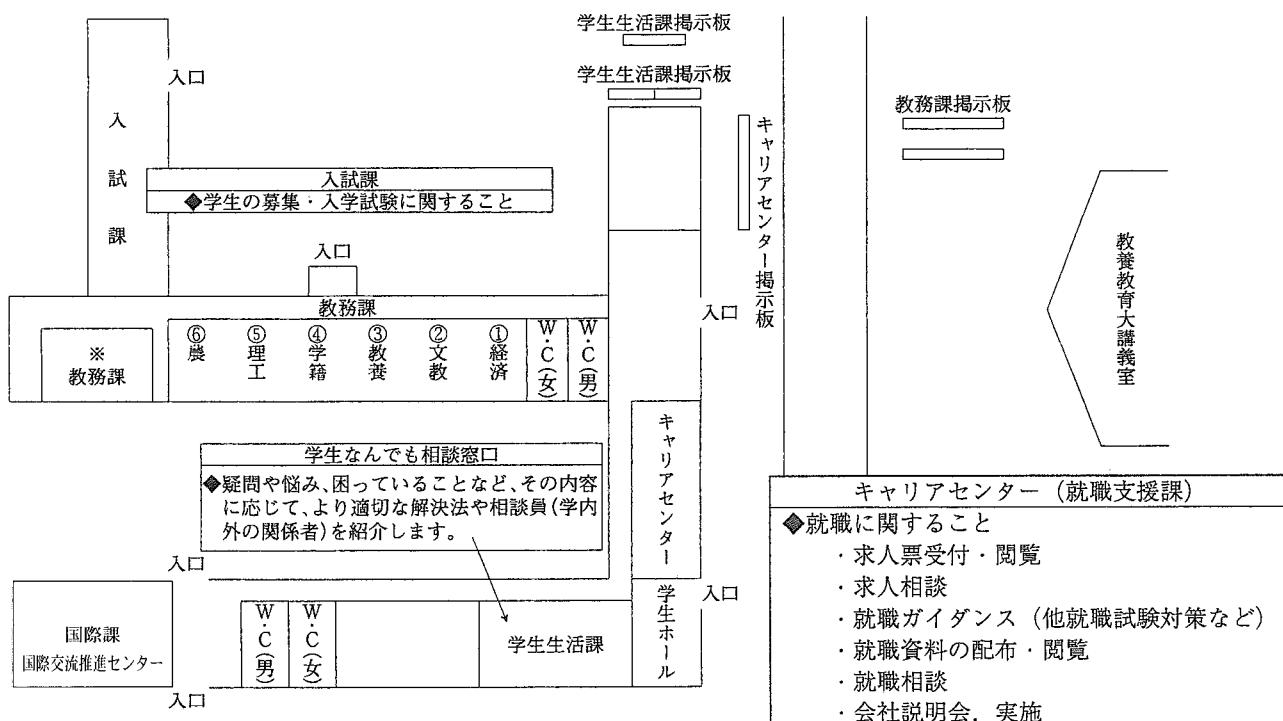
開講年度	2014	開講時期	前学期														
科目コード	30545000																
科目名	総合セミナー																
担当教員（所属）																	
単位数	2																
曜日・校時																	
曜日・校時 追記	前期(夏季) 集中																
講義形式																	
講義概要	企業経営専攻の院生が最低1回ないし2回の報告と検討を行い、全体で15回の講義とする。																
開講意図	院生の研究テーマ（修士論文）についての概要を報告させ、それについての指導を行う。																
到達目標	院生の研究テーマ（修士論文）の中間報告の指導を行い、最終的に修士論文を完成させる。																
聴講指定																	
履修上の注意	出席、報告を重視する。																
授業計画	企業経営専攻の院生が最低1回ないし2回の報告と検討を行い、全体で15回の講義とする。																
成績評価の方法と基準	成績評価の方法—各回のプレゼンテーションを各担当教員が評価し、実施責任者がとりまとめ、60点以上を合格とする。 成績の評価基準—選択した題材が修士論文作成の内容に適合していること。 報告者が自身の主張を適切にプレゼンテーションできること。 討論に積極的に参加すること。																
開示する試験問題等	開示	評価等の開示は指導教員の研究室で行う。															
開示方法	開示	評価等の開示は指導教員の研究室で行う。															
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特に指定なし。ただし報告に必要な文献は随時演習時に紹介している</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	特に指定なし。ただし報告に必要な文献は随時演習時に紹介している					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
特に指定なし。ただし報告に必要な文献は随時演習時に紹介している																	
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>版</th> <th>著者名</th> <th>発行所名 発行者名</th> <th>出版年</th> <th>備考 (巻冊:上下, ISBN等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用しない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)	使用しない					
資料名	版	著者名	発行所名 発行者名	出版年	備考 (巻冊:上下, ISBN等)												
使用しない																	
リンク	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>URL</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					名称	URL										
名称	URL																
オフィスアワー	主任指導教員、副主任指導教員を中心として参加教員の研究室等																
その他																	

大学院マニュアル

●学生センターの配置図及び業務

教務課	
※教育企画担当	※教務管理担当
◆授業評価に関すること	◆学生証に関すること ◆学生の身上に関すること 改姓・改名・住所変更・保証人変更等

教務課		
①②③⑤⑥各教務担当	③教養教育管理担当	④学籍管理担当
◆専門科目の実施・履修相談等に関すること ◆各種証明書の申請・交付に関すること ◆大学院の学位申請に関すること ◆教育職員免許取得に関すること ◆追・再試験等に関すること ◆転学・転学部・転課程・転専攻等に関すること ◆教育実習に関すること	◆教養教育科のティーチングアシスタントに関すること	◆異動に関すること ・休学、復学、退学 ◆科目等履修生に関すること ◆研究生に関すること ◆単位互換に関すること



国際課
◆留学生に関すること
・国費外国人留学生給与 ・外国人留学生奨学金 ・国際交流会館 ・住宅総合補償 ・留学生チューター申請 ・入国管理局への取次申請 ・資格外活動申請 ・在留期間更新申請 ・証明書の発行 ・国費外国人留学生証明書 ・各種奨学金受給証明書

学生活課
◆入学料・授業料の免除・徴収猶予に関すること ◆奨学金に関すること ◆学生教育研究災害傷害保険に関すること ◆学生寮に関すること ◆課外活動に関すること ◆大学会館、サークル会館、合宿研修所に関すること ◆体育施設に関すること ◆自動車入構許可に関すること ◆旅客運賃割引に関すること ◆通学定期に関すること ◆遺失物・拾得物に関すること

大学院教務担当のお知らせ

● 授業料の納付（担当：財務部経理調達課収入係）

区分	納付期限	備考
授業料……年額535,800円	前期 5月31日	所定の期日を過ぎても納付を怠ったときは、除籍されることがありますので、滞納しないようにして下さい。
前期（4～9月分）267,900円	後期 11月30日	
前期（10～3月分）267,900円		

● 授業料の免除（担当：学生生活課）

下記のいずれかに該当する場合は、本人の申請により、選考のうえ、授業料の全額又は半額が免除されることがあります。また、納入期間内の納入が困難な場合は、願い出により、授業料の徴収を猶予することができます。

- 経済的理由（負債は除く）により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合。
- 納期前6ヶ月以内（新入生の1年次前期の場合は入学前1年以内）において、学資負担者が死亡し、又は学生もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難と認められる場合。

授業料免除申請の期日、方法等については、前期分（1月頃）と後期分（7月頃）の年2回、「授業料免除関係掲示板」（鍋島キャンパスは「学生サービス課掲示板」）に掲示します。

なお、同時期に佐賀大学学生センターHP内「授業料免除」ページに申請書類等をアップロードしますので、申請希望者は各自印刷してください。

（ホームページアドレス <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>）

● 奨学金制度（ホームページアドレス <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>）

1. 日本人学生（担当：学生生活課）

本学で取り扱っている奨学生の概要は次のとおりです。

(1) 日本学生支援機構の奨学生

教育の機会均等に寄与することを目的として、人物・学業とも優れ経済的理由により修学困難な学生に貸与されます。

(2) 地方公共団体及び民間育英団体の奨学生

地方公共団体及び民間育英団体の奨学生には、地域を限定し、その地区出身者に限る奨学生や学部・専攻等を指定した奨学生があります。

詳細については、学生生活課に問い合わせてください。

2. 留学生（担当：国際課）

(1) 私費外国人留学生学習奨励費

人物・学業ともに優れている留学生に支給されます。

(2) 民間団体等の奨学生

民間団体等の奨学生には、出身国・出身地域及び学部等を指定する奨学生があります。

詳細については、国際課に問い合わせてください。

学生相談・保健管理センター

● 相談機関

1. 学生相談

学生の皆さんのかんぱスライフのあらゆる疑問や悩み、困っていることを聞いて、その内容に応じて、より適切な解決法や相談員（学内外の関係者）を紹介する「学生なんでも相談窓口」を学生生活課内に設置しています。気軽に相談して下さい。

次のようなことに悩んでいたら相談に来て下さい。

- 単位のこと • 授業料・奨学金のこと • アルバイトのこと
- 修了のこと • 就職・進学のこと • スポーツ傷害、交通事故のこと等

メール：voice@mail.admin.saga-u.ac.jp

2. 学生の身体・精神面の健康上の相談

保健管理センターの学生相談室は「学生の身体・精神面の健康上の問題」について個人的相談を希望する学生のために設けられたもので、いつでも相談できます。

また、保健管理センターまで行きにくい時は、直接電話で相談することもできます。

電話番号

本庄キャンパス 0952-28-8181

平日 8:30～17:15

土・日・祝日は休みです

3. 専門家によるカウンセリング

佐賀大学学生カウンセラー相談窓口は、学生の皆さんのかんぱスライフのあらゆる疑問や悩み、困っていることなどを支援するために開設しています。

相談は、直接、下記のカウンセラー（学外非常勤）
のメールアドレスか保健管理センター
0952-28-8181に連絡して下さい。

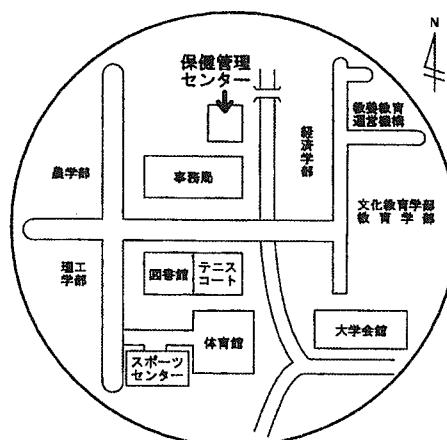
kaunseis@mail.admin.saga-u.ac.jp

kaunseyo@mail.admin.saga-u.ac.jp

相談内容等の秘密は堅く守られますので安心して
気軽に利用して下さい。

● 保健管理センター案内図

本庄キャンパス



研究図書室の利用

研究図書室について

1. 研究図書室の利用について

- 研究図書館では、必ず受付を済ませてから利用してください。（所属ゼミ、学籍番号・氏名、利用目的などを、備え付けの利用簿に記載する。）
- 利用時間は、8：30 から 17：15までです。
- その他『利用細則』（添付資料）をご参照ください。

2. 所蔵資料について

- 研究図書室の所蔵資料は、外部に持ち出すことができません。
- 利用後の所蔵資料は所定の場所に必ず返却してください。
- 所蔵資料をコピーしたい場合は、身分証明書（学生証）等を預かることにより、室外での一時的なコピー帶出を認める場合があります。
(院生の方は下記により研究図書室内でコピーすることができます。)
- 所蔵資料については、『所蔵資料リスト』（添付資料）をご参照ください。

3. コピーカードについて

- 院生の皆さんには、年間（4月から翌年3月末の間）1,000枚までコピーができます。
- 個人別のコピーカードを、研究図書室の院生用引き出しにまとめて入れています。
- 利用後は必ず院生用引き出しに戻してください。

4. その他

- 研究図書室は経済学部2号棟の2階です。コピー利用だけの場合も必ず受付をしてください。
- * 研究図書室には2名のスタッフがいますので、気軽に問い合わせください。
(大坪 弘／小渕則子)

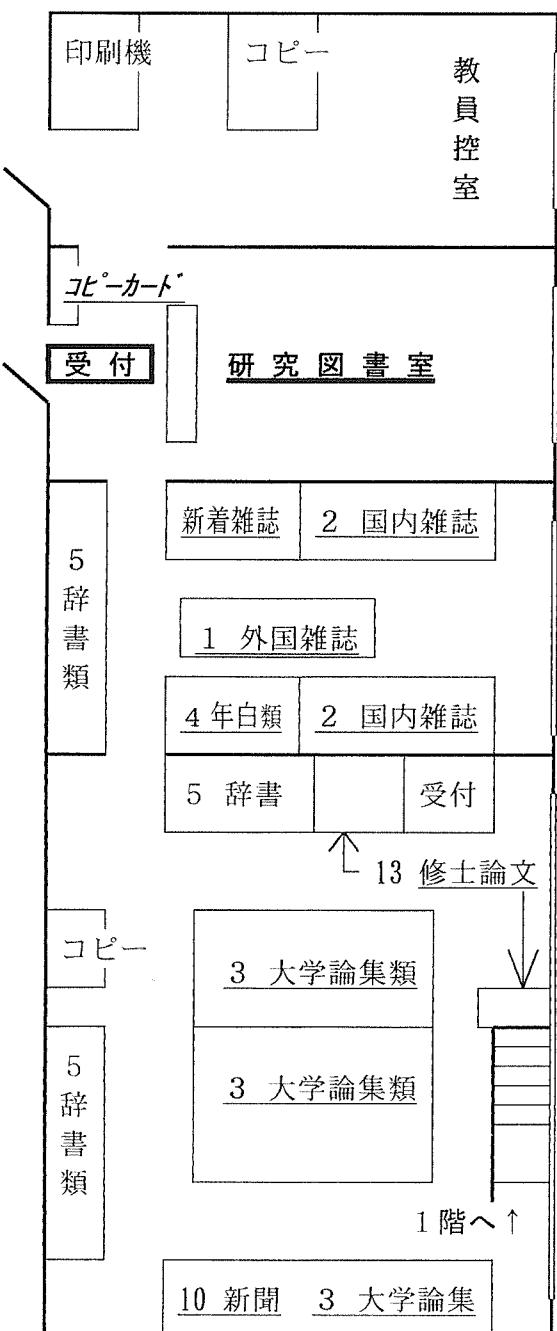
(所蔵資料リスト) (参考)

1 外国雑誌類	約 450種 (内継続 220種)
2 国内一般雑誌類(週刊・月刊等)	約 760種 (内継続 250種)
3 国内大学論集・紀要類	約 1,300種 (内継続 1,040種)
4 国内年報・白書類(年刊等)	約 500種 (内継続 250種)
(1 ~ 4までの計)	約 3,010種 (内継続 1,760種)
5 辞書・目録類	約 430種
6 社史・市史類	約 1,950種
7 判例体系類(追録・差し替え)	約 70種
8 大審院関係	3種
(1) 大審院判例集 3 (大13) ~ 23 (昭20)	
(2) 大審院民事判決録 13 (明40) ~ 27 (大10)	
(3) 大審院刑事判決録 13 (明40) ~ 27 (大10)	
9 マイクロフィルム・マイクロフィッシュ類	3種
(1) 有価証券報告書 (東証1部 昭和24~昭和49)	
(2) 都道府県統計書 (明治15~昭和17／戦後編なし)	
(3) THOMAS ROBERT MALTHUS REFERENCES	
10 新聞	4種
(1) 日本経済新聞(縮刷版)	
(2) 日経産業新聞(縮刷版)	
(3) FINANCIAL TIMES(1979-1+)	
(4) THE WALL STREET JOURNAL(1979-1+)	
11 有明銀行帳簿	約 103冊
12 図書類	約 1,500冊
13 大学院経済学研究科修士論文	約 200冊

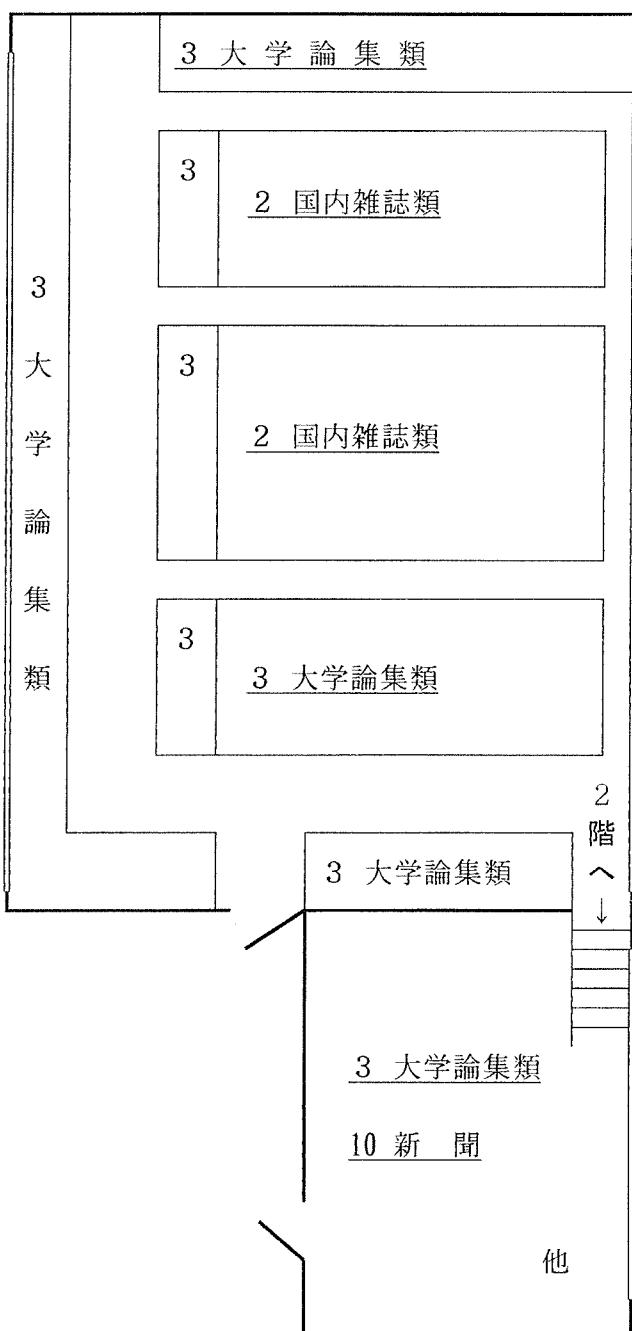
資料室（内）の配架図（参考）

※ 数字の（1～13）は前ページの『所蔵資料リスト』の番号に対応しています。

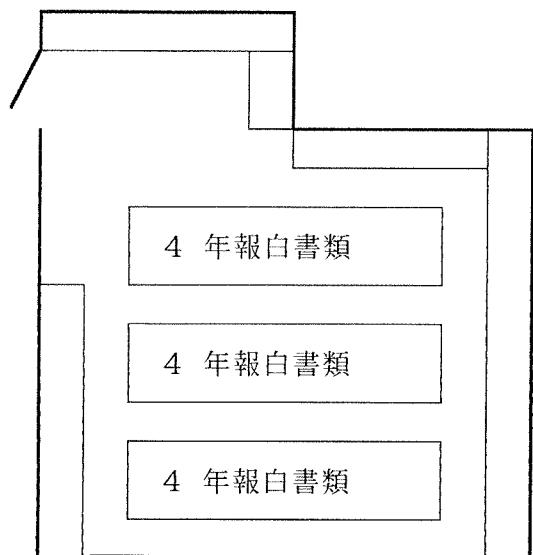
(A) 2号館2階(研究図書室)



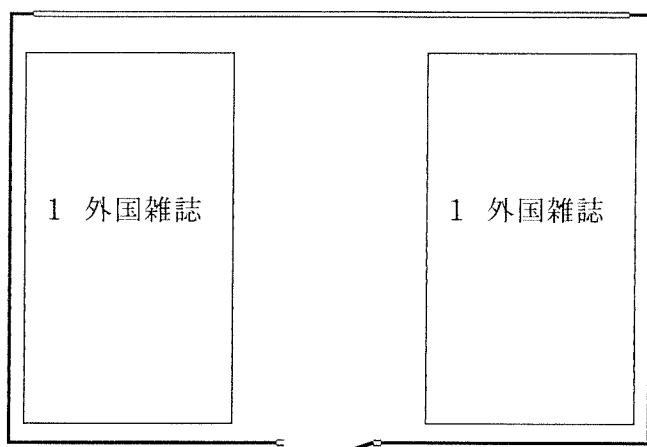
(B) 2号館1階(書庫)



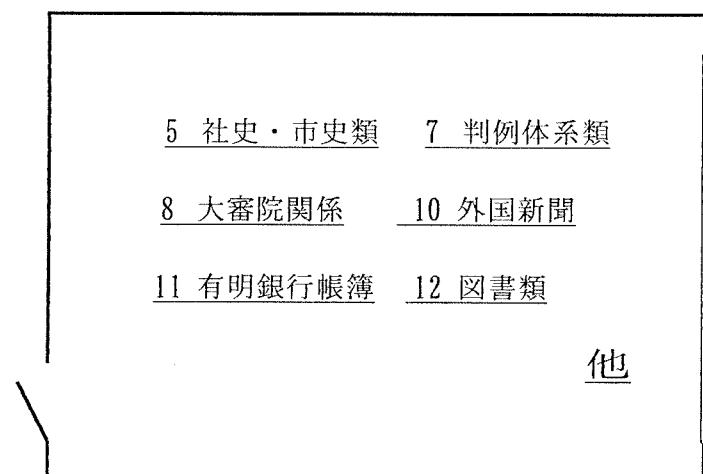
(C) 3号館1階（年報白書）



(D) 3号館1階（外国雑誌）



(E) 資料室別館（学生センター棟・旧設備室）



情報演習室の利用

〔佐賀大学経済学研究科情報演習室等利用について〕

第1，第2情報演習室を利用する学生は以下のとおりです。

- ① 本学部の教職員
- ② 本学部の学生、大学院生、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生
- ③ その他、情報教育等支援室長が許可した者

第1情報演習室・第2情報演習室の利用

第1情報演習室は原則として正課の授業で利用します。第1情報演習室を授業で利用しない時間及び第2情報演習室は原則として特別な手続きなく利用できます。ただし、次のことに留意し利用してください。

- ① 第1,第2情報演習室の利用について不明な点は情報教育等支援室主任の指示に従うこと。
- ② 利用時間は原則として月曜日から金曜日の必要な場合に利用することとする。
- ③ 第1情報演習室への入室には学生証が必要です（カードによる開錠のため）

（利用者の義務）

利用者は、情報演習室等の設置目的に従い、適切な利用をしてください。

特に下記の事項に注意してください。

- ① 室内の喫煙、飲食はしないこと。
- ② 許可なく備品類を室外に持ち出さないこと。
- ③ ソフトウェアの複製を厳禁する。

地域経済研究センターの利用

研究・教育の成果を地域社会に公開するとともに、地域社会と協力して研究・教育を発展させることを目的に平成元年4月に設置。大学院生の積極的な参加を希望。

1. 調査研究事業部

(1) 調査・研究の推進

- 地域課題調査「今後の公共交通のあり方」「地域ブランド化の推進」など
- 委託調査

(2) 研究会等の開催

- 「佐賀地域経済研究会」(年6回)の開催

2. 社会連携事業部

(1) 地域との連携

(2) 学生の実践的教育・学習活動の推進

- 実地研修「ウォッキング佐賀」の実施
- 自主的な地域活動への支援 東北支援「ropE」環境保全「ぐるりん」など

(3) 地域の生涯学習・学習活動への支援

- 佐賀大学公開講座「みんなの大学」

3. 情報化事業部

センターHPの管理

※機関誌※

- 所報 本年度の事業計画と前年度の事業報告(毎年6月発行)
- 調査研究報告書 佐賀県が抱える地域課題を中心に発行
- リーフレット

※地域経済研究センターの連絡先

経済学部3号館1階

TEL 0952-28-8474

FAX 0952-28-8454

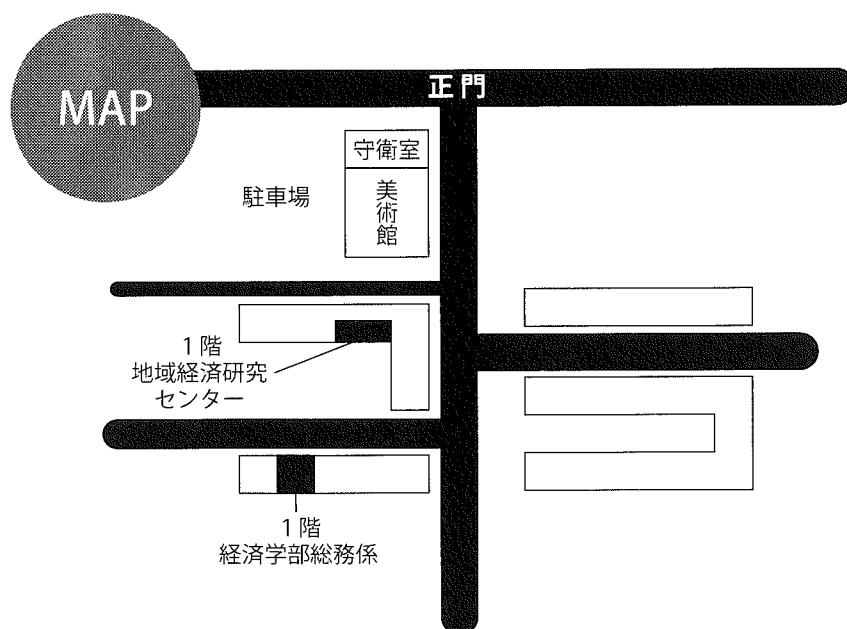
センター組織

センター長	教 授	富 田 義 典
副センター長	准教授	戸 田 順一郎
調査研究事業部主任	教 授	納 富 一 郎
社会連携事業部主任	准教授	山 本 長 次
情報化事業部主任	准教授	安 田 伸 一
センター助手	助 手	池 田 智 子

センター委員

() 内は所属学科

准教授 戸 田 順一郎	(経 済)
准教授 羽 石 寛 志	(経 営)
教 授 早 川 智津子	(経済法)



佐賀大学経済学会のご案内

佐賀大学経済学会は、教員と経済学部学生、大学院生によって組織される学術団体です。

経済学会は、現代社会の経済・法・政治現象および歴史の分析研究の成果を発表する場となっています。この学会は次に説明するようないくつかの活動を行っており、大学院生にも参加、ご協力いただきたいと思います。

1 研究会や講演会の開催

佐賀大学経済学部や他大学・研究機関の研究成果を公表して、ディスカッションする。

2 佐賀大学経済論集の発行

経済学会員の論文をレフリー審査して、1年間に6冊を発行

他大学・研究機関の刊行雑誌と交換して、経済学部研究図書室の資料を充実

3 学術叢書の発刊

1年間に1～2冊を発刊

教員の研究成果をまとめる

4 学生論集の発行

1年間に2冊を発刊

学生の演習（セミナー）論文や、大学院生の修士論文テーマの公表

以上のような4つの活動を支えるために、経済学会に加入していただくことをお願いいたします。
会員になるには、会費を1年間に4,000円納めることが条件です。

なお、経済学会の事務局は、経済学部2号棟2階の研究図書室にありますので、ご質問があれば、お尋ねください。（連絡先 28-8452 大坪弘助手）

大学院生室利用規則

〔佐賀大学大学院経済学研究科大学院生室使用の案内〕

佐賀大学大学院経済学研究科大学院生室の使用に当たっては、この規則を遵守して下さい。

1. 室内は、常に整理、整頓し、教育・研究環境の保持に努めて下さい。
2. 火災予防に留意し、火気の使用については、備え付け以外の機器を使用しないで下さい。
3. 盗難防止に留意し、現金等は常に身に付けて下さい。
4. 退室の際は、その都度、火気の点検、戸締り及び消灯を励行し、施錠を確実に行って下さい。
5. 備え付けの物品等を無断で移動しないで下さい。
6. 施設・設備及び物品等を損傷又は汚損したときは、速やかに大学院教務担当に届け出て下さい。
7. 寝具等を持ち込み、宿泊は禁じます。
8. 室内での飲食、喫煙は禁止します。
9. 掲示等は、所定の場所以外に行わないで下さい。
10. 大学院生室の使用時間は8時30分～21時30分までとします。
また、毎週日曜の午前3時～5時はパソコンが使用できません。
11. ペット、不要な物及び部外者を大学院生室の入室を禁じます。
12. その他研究科長の指示に従って下さい。

履修案内 (平成 26 年度)

発行 佐賀大学大学院経済学研究科

印刷 (株)サガプリント

2014. 4 発行

この印刷物は、再生紙を使用しています。